

法輪大法

カナダ法会での説法

李 洪 志

カナダ法会での説法

李洪志

一九九九年五月二十三日 トロントにおいて

皆さん、こんにちは！ 時間の余裕はあまりないようですが、食事をすませたばかりの人もいれば、まだ入場していない人もいます。午後四時頃帰る学習者がいると聞いて、少し早めに始めました。

毎回の法会の終わりに、師父が質疑に応答することは既に恒例になったようです。今日ここで言うておきますが、各地区でこのような法会がよく開かれるかもしれませんが、私は全ての法会に出席することはできません。このことは皆さんに伝えておきます。時に皆さんに招かれています、行けない時もあるかもしれません。なぜなら、法は既に皆さんに全て伝えたからです。ここで皆さんに解答した質問は、実は修煉さえしていけば分かるようになります。しかし、質問を出した人の多くは、往々にして新しい学習者、或いは関に遭って長きにわたってある次元に留まっている人です。私が思うには、一途に修煉すれば、どんな問題でも解決され、ある時期に悟れなかったことも将来必ず悟ることができます。皆さんが集まって開いた今日のような法会は、全て学習者が自発的に運営したものであり、修煉は皆さん自身で行なうことだからです。あらゆるこのような形式的なことに対して、私は一切口を挟んでいません。特に多くの学習者は私に会うことができなくても、あなたに責任を負わなければならないので、法を師とし、本を多く読み、法を多く学べば、どんな問題も解決できると教えました。(拍手) 来た以上、やはり皆さんの質問に答えます。

まず要求が一つあります。在席の皆さんの中に初めて法会に参加する新しい学習者がいるかもしれません。新しい学習者は聞きたい問題が多くあると思いますが、実はあなたの質問の答えはみな本に書いてあります。学習者が法会を開き、私が皆さんに会うのはなかなか難しく、時間も少ないので、あなたが出した問題はきっとまだ初歩的なもので、法輪大法に対して全く分かっていないような質問もありますが、本を読めばあなたの問題は解決されると思います。時間が貴重なので、ここでは修煉の中でぶつかった問題しか解答できません。また、常人社会に関心を持っている人は、常人社会の中の問題、或いは他の方面に関する問題を出すかもしれませんが、私が思うには、このような質問は出さないほうがいいの

です。常人社会のことに私は一切構っていないからです。皆さんもはっきり分かっています、私はいま修煉者にだけ責任を持っており、修煉以外のことは一切構っておらず、そのような質問に答えることはできません。では、今から質疑応答を始めたいと思います。

弟子：長期に魔難に遭い乗り越えられない学習者がいますが、指摘してあげたほうがいいのか、それとも本人に学法を通じて自ら悟るようにさせるべきでしょうか？

師：彼が進歩できない原因が目に付いたら、どうして指摘してあげないのでしょうか？ 善意で教えることは何の問題もありません。怒られるのではと恐れているのですか？ 相手の態度はちょうど修煉の機会ではありませんか？ あなたの話が彼に理解されなくても大丈夫です。常人のこの情も放下しなければならないのではないのでしょうか？ 問題点に気づいたら、本人に教えなければなりません。ある次元に長く留まって向上しない人がいますが、なかなか向上しないので、ますます本も読まなくなり、精進もしないのです。それでは関や難はますます大きくなり、ますます動揺し、結局、修煉できなくなってしまう。最初から最後までこのような問題が存在しています。修煉は非常に厳粛なことであり、少しでもいい加減なことをしてはいけません。その基準に達していなければ、決してその次元に入ることはできません。普通の常人が圓滿成就まで達し、神聖な大覚者になろうとしているので、この問題をはっきり認識できず、ひいては重要視しなければならぬのではありませんか？

弟子：『洪吟』の中に多くの美しい挿絵がありますが、佛の体を囲む輪は佛位を表しているかと本の中に書いてありますが、佛の頭上にある輪はどういう意味なのでしょう？ 佛の頭上或いは体の周りには輪は一つだけではありませんか？

師：皆さんが寺院或いは古代の壁画で見た佛の形象は、往々にして常人の描いたものです。しかし非常に如実に描いた絵もあり、確かに大まかに佛、神の形象を表しました。これはなぜでしょうか？ ご存知のように、現在の社会において絶対多数の人は現代的な思想意識の影響を受け、科学がまだ探測できていないことを信じていません。そのため、人間は自分で自分を封じ込めた状態に陥り、科学がまだ認識していない真実の状況が、ますます見えなくなりました。しかしこれらの超常的な現象は必ずしも現れないとは限りません。しかし往々にして、現れても人々はそれを未確認現象、自然現象として片付け、或いは説明できないと言

って棚上げし、それに触れたり探測したりする勇気もありません。もしそれを探測した人がいれば、自分こそは正統な科学だと思っている人々が立ち上がってそれに反対するので、人々はますます信じる勇気を失います。

ご存知のように、カトリック教にしても、キリスト教にしても、或いは佛教の全盛期、全ての人々は神の存在を信じていたため、神を信じない人間の観念を破ることができ、同時に人々も簡単に宇宙の真実と神の現れを見ることができました。まず信じて、はじめて見ることができる、これは宇宙の理なのです。信じなければ信じないほど、見させないのです。実はこれは人間自身の心が正しくないため引き起こされたのです。由緒ある教会、特にパリの宮殿の絵に描かれた天国世界と神の形象は本当にその通りです。本当によく似ています。特に中国の古い寺に描かれた佛の形象ですが、人間はどうしてそれを描き出すことができたのでしょうか？ なぜ佛がこのような形象をしていると知り得たのでしょうか？ 人々がみな神を信じていた時代には、多くの人にそれが見え、その中には異なる職種の人があり、芸術家も含まれていました。

今日大法を学んでいる人の中に、画家、彫刻家など多くの職業の人がいます。芸術家はそれが見えると、垣間見た光景を描くことができます。ですから、宗教の全盛期、多く的人是敬虔な宗教の信者でありながら、芸術家でもあったため、その光景を描いたのです。東洋の佛像ですが、ご存知のように、なぜ佛がこのような形象をしていると人間は知り得たのでしょうか？ 黄色い袈裟を着て、しかもなぜ髪の毛が藍色だと分かったのでしょうか？ つまり、それが見えた人がいました。その次元に達していなければ、本当の真相もあなたに顕れてこないのです、人々に見えた形象は、往々にしてそれぞれの次元で見えたものです。つまり、その人に天国世界が見え、神も見えました。あなたにも神と天国世界が見えましたが、二人が見た光景は同じでないかもしれません。つまり、人々はみな同じ次元にいないのです。在席の皆さんも思想が同じ境地にいる人はいません。宇宙の真相は非常に複雑であり、粒子の大きさが異なる空間を決めており、少し違っただけで別の層の粒子になります。境地と次元の分け方は非常に複雑で、少し突破しただけで同じ境地にいらなくなります。ですから、佛の境地にいないければ、佛が見えた時、顕れてきたのはあなたの境地での顕現でしかありません。

佛の体の後ろにある光の輪は何を意味しているのでしょうか？ 実は佛の体の周りに非常に大きな場があります。玄関設位を説いた時、既にその生成について説きました。最初は一種の玄関の形式でした。その後、玄関が帰位した後、金剛不

壊の体と共に体内で次第に膨れ上がり、体と共に成長していきます。最後にこの佛体、つまり皆さんの修煉によって出来上がった神体は本人の形象と同じ大きさまで成長した時、玄関は既に体外にまで成長し、同時に体より少し広い範囲を覆っています。私はこれを佛の世界と呼んでおり、つまり彼自身の世界です。この世界の中には何でもあり、非常に豊富で、ほしいものは何でもあります。それでは皆さん考えてみてください。ほしいものが何でもあれば、そこに現れた光景はきっと言い表しようのないほど非常に偉大で、殊勝かつ壮観なのです。ミクロからマクロまで、中に無いものはありません。ですから、皆さんが見えるようになると、光り輝く素晴らしい非常にきれいなものが見えてきます。彫刻された佛像の後ろにいつも船のようなものが描かれています（立っている佛像の後ろに表れている形状）、実はそれは佛位の光景を見たのです。しかし、如来の次元に到達しなければ、佛の真相を完全に見ることはできず、この程度のものしか見えません。

このような場の本当の存在形式は人類が筆で描けるものではなく、人間はこのような色も持っていません。なぜなら、この世にある全ての色はみな、分子粒子で構成されているからです。人類のこの空間にある全てはみな、分子粒子で構成されており、この世の顔料の色も分子粒子で構成されています。しかし、その空間の顔料の色は更にミクロ的な粒子で構成されているので、その色がなければ、描くこともできません。人々はそれを見た時、「あ！素晴らしい！この光景は本当に素晴らしい！」と感じ、往々にしてこのような感覚です。それでは、佛の頭上にある光の輪は何を意味しているのでしょうか？実はそれは佛の智慧、神の智慧の象徴であり、その思想と智慧の中から放射されたのです。私が言っている思想と人間が言う脳とは別の概念です。私が言っている人間の思想はあなたの真体の思想を指しており、それこそがあなたの思想、動機を構成する本当の根源です。しかし、人間の脳はあなたの生命の全過程において人間という次元にいる時の皮袋にすぎず、最も浅はかなもので、思想と全く違います。しかし、人間が何かを表現しようとする時、思想は人間の脳を通して伝え出されます。もちろん、他にも多くの佛の表現形式がありますが、非常に多いのです。

弟子：他の学習者が何かに執着しているのをみて、しばらくすると本人が自分で悟って改めるだろうといつも思っています。もし長引いてしまうと、全体の向上にマイナスの影響を及ぼすでしょうか？

師：他の人の修煉にマイナスの影響はなく、それはその人個人の状態にすぎませ

ん。しかし、例をあげますが、師父にその人の執着が見え、あなたに指摘してもらおうようにわざわざその執着をあなたに気づかせ、どうしてもあなたが気づくようにしますが、あなたはその人に指摘してあげますか？ 皆さんは真・善・忍を修めており、どこにおいても良い人にならなければなりません。他人に不足があり、向上できないのを見た時、どうして善意をもって本人に教えないのでしょうか？ もちろん異なる修煉の次元で異なる状態もあり、学習者は修煉の過程でそれぞれの次元での現れがありますが、具体的なことは自分で判断してください。

弟子：私はよく夢を見ますが、時によく分からないのは、それが先生のお告げなのか、それとも過去、未来或いは他の空間の光景が見えたのでしょうか？

師：夢のことについて、私は既に非常に明白に説きました。今まで夢のことをはっきり説明できる人はいませんでした。ですから、このことについて私はわざわざ皆さんに説明しました。人間には異なる神がおり、あなたの生命自体にまた異なる形象の生命体が存在しており、非常に複雑なので、だれも説明しようとしませんでした。しかし、このような光景が現れる時、既に夢ではなくなります。肉体の表面の意識は麻痺の状態、休憩の状態、或いは入静した状態で本当に他の空間の光景、或いは生命と接触し、しかもその状態が非常にリアルである場合、それは夢ではなく、本当に接触したのです。思想の中の思想業力、或いは各種の観念、あなたの睡眠中に反映してきた様々なものに至っては、それは主意識による行為ではなく、気にする必要はありません。

弟子：教育を受けていない人は、どのように法輪大法に対する理解を深め、彼は圓滿成就まで修めることができるのでしょうか？

師：教育を受けていなくても、もちろん大法を理解することができます。中国ではこのような例はたくさんあります。多くの年配の人は子供の頃、家が貧しく学校に通うことができなかつたので、知識があまりないのです。このような人たちが修煉の過程でいささかも取り残されていないと私は気づきました。しかも修煉は非常に良くできています。特に修煉の過程で、大法の本を読む時、その純粹で清らかな心は奇跡をもたらしています。大法に対する確固とした信念は大法の背後の内涵にいる佛、道、神まで感心させ、多くの奇跡が起きました。

例えば、読み書きのできない人は「他の人は精進し、本を読んでおり、しかも法まで暗記している。私は字が読めないのに、どのように学んだらいいのか？」

と焦っています。彼は本当に心から真念が生じたのです。多くの人はこのような状態で真剣に法を学び、次第に字が読めるようになりました。このような事例は非常に多くありました。ある学習者は字が読めなくて焦っていましたが、どうしたらいいか考えに考えているうちに、本の上に伏せて寝てしまいました。しかし、うたた寝をしている時、本の中の全ての字がみな金色になり、全ての字が彼の頭に飛び込んだのです。目が覚めると、一冊の本が丸々読めるようになりました。しかし、彼は今まで教育を受けたことがなく、自分の名前も書けない人でしたが、『轉法輪』にある字が全て読めるようになりました。このような現象は非常に多くありました。しかし、それを求めてはいけません。このような出来事もあるので、私も家に帰ってこのようにしてみようという話ではありません。それでは、目的を持って執着心ですることになります。その人が何かを得ようと考えず、本当に自分が法を得られないことに焦っているのです。心は違ってきます。ですから、真に大法を修煉し、正しく対処する時、その確固とした心は本当に素晴らしいのです。それを見て神まであなたが素晴らしいと思い、奇跡が起こります。

もちろん、英語版の『轉法輪』にも同じような効果があります。英語だけでなく、他の言語も同じです。ただ他の民族では、この法はまだ多くの人に理解されていないので、中国のような環境はまだ形成されていません。人々が大法に対してかなり深く理解し、修煉の環境が形成されたら、この環境は人を向上させることができます。

弟子：信仰している宗教を放棄して、はじめて法輪大法を学ぶことができるでしょうか？

師：宗教のことについて、私は既に幾度となく説きました。あなたがどんな宗教を学んでも私は反対しませんが、私たちは宗教でないため、宗教と一緒にしないでください。しかし、あなたにある道理を教えましょう。修煉は非常に厳粛なことです。宗教は修煉であり、純粹に修煉なのです。これも修めたい、あれも修めたいと思っていれば、一体何を修めるのでしょうか？ 専一に修煉することができなければ、その法門で圓滿成就できません。ですから、何を修めたいか自分で選択するように私は皆さんに教えているだけです。またあなたにこのことも教えますが、修煉は必ず専一でなければならず、専一で修煉して、やっと圓滿成就できるのです。専一でなければ決して圓滿成就できません。このことについてはこのぐらいにしましょう。

宗教のことに言及したので、ついでにもう少し話したいと思います。在席の人の中に、記者がいるかみしれず、この問題にずっと興味をもっているでしょう。我々は宗教ではないと私は言っています。今日ここで法会を開いていますが、全て学習者が自発的に催したのです。皆さんはいつも一緒に煉功しており、みなカナダという地区の学習者で、一緒に法を学ぶ時の体験を交流したいと思い、他の地区も同じで、みなそれぞれの能力を發揮し、会場を借りる人もいれば、資料を用意する人やあれこれをする人がいるので、この大会を開くことができたのです。大法にはいかなる宗教の形式もありません。

宗教の場合、教会があり、教会がなければ何らかの環境や、場所、事務所がありますが、私たちには一切ありません。みな社会の一員であり、仕事があり、自分のすべき事をしてはいますが、ただそれ以外の時間に法を学んでおり、修煉や煉功をしているだけです。みなこのようです。ですから宗教とは言えません。崇拜の形式もなく、佛教のような戒律もありません。他の宗教では幾つかの規定があるかもしれませんが、その規定に従わなければならないのです。私たちのところは何もありません。学びたければ来ていいし、学びたくなければ去って行っても、あなたを管理し、規制しようとする人はいません。学習者の修煉に対して私は責任を持っていますが、それは常人のこの空間に現れないのです。どうして常人の形式に執着しなければならないのでしょうか？ 大法はいかなる形式も持つておらず、どうしてそれが宗教だと言えるのでしょうか？ 私たちには学習者の氏名や住所を登録する名簿もありません。このようなものはありません。ただ自分が無償で皆さんの世話をしたいと思う人はおり、名前を皆さんに教え、もし煉功したければ連絡をください、というように皆さんのために何かをしたいと思っている人はいます。みな自発的にこのようなことをしています。しかしこれを理解できない人がおり、宗教だと言います。今まで人々に認識された宗教以外は、みな「邪教」だと思われるので、私たちをも「邪教」だと言います。「邪教」とは何でしょうか？ 私たちは「教」でもなく、ましてや「邪教」でもないのです。邪教のことにについて皆さんはご存知だと思いますが、蓄財をしたり、人を騙したり、人を率いて悪いことをしたりして、つまり正しくないことをしているので、それが邪だと言うのです。しかし私たちは人々に心を修め、善に向かい、何かをする時、まず相手のことを配慮し、どんな職場においても仕事をきちんとこなし、人々から良い人だと言われなければならないと教えています。私は皆さんにこうするように教えていますが、これが邪なののでしょうか？ これ以外、私は皆さんにいかなる他のこともさせていません。ただ更によく行ない、良い人になり、更に良い人となり、常人の中の良い人より更に良い人になるように教え、最後に超

常的な人になり、圓滿成就に達するよう教えているだけです。

弟子：私はカトリック教の信者ですが、私のお祈りはいつも応えられていると感じていますが、私は法輪大法を修煉しながら、お祈りを放棄しなくてもいいでしょうか？

師：私に言えるのはやはりいつもの話です。修煉は専一でなければならず、あなたが何を修めようと私は構いません。修めたいものを修めればいいのです。しかし、修煉するのであれば、必ず専一に修煉する形を選んでください。これをしながら他のものもするようではいけません。これを言い出したのはあなたに責任を負うためです。ローマのカトリック教会の中において天国に行けると思えば、修めてもいいのです。私も反対しません。法輪大法の中において圓滿成就できると思えば修めていいのです。私の見解は他でもなくこうなのです。いかなる形式でも人々に強制的にこれをさせたり、あれをさせたりすることはできません。表面上あなたをここに集めて強制的にこれをさせても、あなたがしたくなく、心がここになれば何の役に立つでしょうか？ ですから、私は形式にこだわっていません。あなた自身がしたいと思って、はじめてできるのです。

しかし、ついでにこういうことも話したいと思います。「あなたがしていることが世界で最も正しいと思っっているのですか？」と前回ある記者から質問されました。私は「確かに、私は自分が最も正しいことをしていると思っっています！」と答えました。(拍手) 私は皆さんから一銭も取らず、ただ皆さんに尽くしているだけで、もちろん最も正しいことをしています！ 私は皆さんのためになるように、皆さんが本当に圓滿成就できるようにしているのです、もちろん最も正しいことをしています！ しかし、ついでに皆さんに言っておきますが、私は何の宗教にも反対していません。特に正教ですが、カトリック教、キリスト教、ユダヤ教、佛教も含めて、私はこれらの宗教に反対したことはありません。しかし、その宗教で圓滿成就できますか？ その宗教のだれがあなたを圓滿成就させることができるのでしょうか？ これは非常に大きな問題です。自分の生命の永遠のために、このことを考えたほうがいいと思います。本当に法輪大法を修煉すれば、あなたを圓滿成就させることができると私は敢えて言います。もし他の環境や宗教で、その牧師或いは教主に「あなたは私を圓滿成就させることができますか？」と聞いてください。もし彼があなたを圓滿成就させることができれば、それを修めてもいいのです。このことについて、話はこれくらいにします。

弟子：情と縁の間にどのような関連があるのでしょうか？ 情から抜け出すことはできますが、縁から抜け出すこともできますか？

師：情と縁は別のことであり、全く同じ概念ではありません。情について既にはつきり説きました。人間は何のために生きているのでしょうか？ 他でもなく情のためです。何を好むにせよ、人間の喜怒哀楽、何かをしたい、したくないと思ったり、この仕事が好きだ、あの仕事は嫌いだ、この人が好きだ、あの人は嫌いだ、この人を愛している、あの人は嫌いだ、これがほしい、あれがほしくないなど、あなたの全ての意思はみなこの情によるものです。ですから、人間は情のために生きています。修煉したければ、この情から抜け出さなければなりません。情から抜け出すことができなければ、情の中にいるのです。この情は常人の中でいろいろな現れ方があります。あなたが執着したり、良いと思ったりすることは全て放下できない心なのです。

「縁」に至っては、例えば今日ここに入って来た人がいますが、あなたが何の目的で来たかにかかわらず、取材しに来ても、法を学びに来ても、情報を集めに来ても、或いは情報を探りに来たとしても、ここに入って来たら、私はあなたを一人の人間と見ており、ただ仕事が違うだけです。あなたがスパイであってもあなたに人間の心があるので、私はあなたを普通の人間と見ており、仕事を見ません。人類社会の全ての仕事はみな常人の仕事にすぎません。ここに入ることができ、私の説法を聴くことができ、特に佛法を聴くことができるのは、縁ではありませんか？ 皆さんはこれを大切にしてください。もちろんこの縁について詳しく説明すれば、各方面のことに及びます。この縁は因縁関係の一種です。例えば、前世でこの人はあの人に借りを造ったり、或いは悪いことをしたりすると、来世二人はまた出会って、前世の借りを返さなければなりません。これは怨恨の縁です。もし前世である人に利益をもたらし、その人が来世牛や馬になっても恩返しをしたいと思えば、来世は牛や馬になり、或いはあなたの妻や夫、或いはあなたを助ける人になるかもしれません。これも一つの縁であり、善縁と呼ばれています。大法と結んだ縁はもっと高尚な縁かもしれませんし、常人の中において、私たちは友人や親戚だったかもしれません。これらのことはみな縁をもたらすことができ、将来この縁を完結させるのです。このような状況です。しかし大法を破壊しないように忠告しておきます。それでは最も悪い因縁を結ぶことになり、永遠にそれを返し尽くすことができず、永遠に償わなければなりません。

弟子：私は大きい関をうまく乗り越えることができますが、子猫、子犬、蝶々、

蚊などの小さい動物を怖がっています。

師：これはつまり少し臆病なところがあるということです。臆病も実は一種の執着です。この種の執着は観念によって形成されたのです。例えば子供の頃から虫やそのようなものを非常に嫌っており、見るだけで汚いと思っています。そのため、このような観念が次第に形成された後、触りたくもなく、近づいてほしくありません。だんだん怖いと思うようになります。これは人間に後天的に形成されたある種の観念によってできたので、執着として現れてきます。この種の執着は、何をしたいかという明確な考えと意識を持っている、他の執着と異なり、つまり後天的に形成された観念の現れです。

弟子：夢の中でいつも人を救っています。法を広め、多くの人に法を得させるべきだと悟りました。

師：これは私が先ほど説いたあの種の縁です。多分あなたの生命、異なる空間で結んだ縁と関係しているかもしれません。しかし、あなたの修煉の向上と直接かわっていません。ひたすら法にしっかりと従って修煉してください。どんなことに出会っても、どんなものを見ても、どんなものが夢の中に現れてきても、確固として法に基づいてください。その全てはあなたの修煉の過程で現れてきた状態にすぎません。ある人は大きな神通力を持っていても、それを動かそうとせず、触れようとせず、それを使おうともせず、まるで彼はその心さえもないようです。

弟子：異なる次元の佛、道、神も一定の天象の変化に従って行動するのでしょうか？

師：非常に次元の高い、大きな神の意志は天象であり、神々の行為も天象の具体的な現れで、神々も天意を守っています。常人社会に現れてきた全てはみな偶然ではありません。人間がいくら執着しても、いくら素晴らしい計画を立てようとしても、実現できないのです。全ての民族、国家、ひいては大統領までみな非常に素晴らしい計画を立てたと思っても、往々にして思い通りにいかないのです。人間はいくら考えても、何かほしいと思っても、或いは何かを恐れている、現れるべきものは必ず現れてきますが、そうでないものは現れてきません。私から見れば全ては既に定められており、人間はただこの定めに従って彼らの義務を果たしているだけです。しかし、ここに一つの問題が存在しています。つまり全てが定められているのであれば、私たちはそのまま行なえばいいのではないかと

思う人がいるかもしれませんが。人間は取りも直さず人間であり、迷いの中にいるので、それを信じようとしません。ですから、人間は相変わらず努力をし、争い、何かをしたいと思い、それによって業を造ってしまいます。

自分は一生ずっと官職につき、あの世に行ってもまた役職につくと言える人がいるでしょうか？　ですから、多くの人は生きている間に手中の権力を利用して良いことを行ないます。生命の存在は人間になるためではなく、あなたの生命も身体の死によって亡くなることもないので、あなたの生命は続いていくのです。ですから賢明な人、本当に智慧のある人は有利な条件を利用して、未来のために更によい生命環境を創るのです。つまり彼は多くの良いことを行なうのです。同時に手中の権力を利用して悪いことをする人もいます。こんなことは人間に唯一できることです。ある出来事が起きる時、あなたがどういう行動をとるのか、良いことをするのか、それとも悪いことをするのか、それはあなた自身の問題です。しかしこの出来事がやはり現れてきます。ですから、人間はこの出来事の前で異なる役を演じています。

弟子：補修の意味は内に向けて探し、成、住、壊は自動的に補修するのでしょうか？

師：成、住、壊、補修ということは皆さん個人の修煉と関係ありません。修煉はつまり自分に向けて探し、自分の足りないところ、執着心、良くない考えを探し、どのようにしたら更によく行なえるのか、良くない考えを取り除くのか、これは内に向けて修めるということです。成、住、壊は宇宙の中の規律であり、悪くなったらどのように補修するのか、それは法のことであり、個人の修煉とは別のことです。

弟子：圓滿成就になった後でも、更に高い次元の理が分からないために、また過ちを起こして落ちてしまうことがありますか？

師：みな笑っていますね。あなたは今まだ人間の考えで神のことを考えており、それでは永遠に分からず、考えようもありません。人が圓滿成就したら、その思想は完全に神としての思想になり、人間としての思想は全くありません。物事を考える時の基点及びその思惟方式は人間と違うのです。しかも環境や境地も違うので、全く違います。その次元の理が分からないということもありません。その理が分からなければ、その次元に到達できないのです。なぜでしょうか？　皆さ

んが修煉している時、なぜ多く法を読み、本を読むように私は言っているのでしょうか？ つまりその次元に到達すれば、その次元の理が分からなければなりません。その次元の法が分かって、ようやくその次元に留まることができるのです。しかしあなたの人間の身体がまだ修煉しているため、必ず人間の考えが存在しており、人間の思想にそれほど多くの法理を知らせることもできないので、修煉の過程で人間の一面に法に対する認識を多く教えてはいけません。

『轉法輪』の中でも、私は概括的に皆さんに説いているだけで、皆さんの真覚を啓発しています。本当の法がどうして人間に知られ得るのでしょうか？ ですから、皆さんは修煉の中で、豁然としてある状態が分かり、ある道理が分かったと感じることしかできませんが、人間の言葉でそれをはっきり説明できません。一旦話してしまえば、そのようなことではなくなります。しかしその道理が分かった時、あなたは確かに既にその次元におり、ただ法理の概括的なものと僅かばかりの非常に簡潔なものだけをあなたに理解させたのです。それらの具体的な広大な理を一遍に人に全て知らせたら、人間のこの一面も佛の境地に到達したことになります、それでいいのでしょうか？！ いけません。なぜなら、皆さんはまだ修煉しており、まだ常人の心が残っており、それを取り除かなければならないので、人間に知らせることはできません。皆さんはそれぐらいの理しか分かりませんが、それは即ちあなたが向上したことの表現形式です。ですから、修煉して到達した次元の高さは即ち、分かっている理の高さです。皆さんが修煉してできた部分は隔離された瞬間、既にその次元の全ての法理が分かったのです。

弟子：荒波が砂を洗う時、大きな関や難に遭う時、乗り越えて来られない人がいますが、この時その人を助けたほうがいいのでしょうか、それとも自力で関を乗り越えてもらったほうがいいのでしょうか？

師：修煉はまさに荒波が砂を洗うように、続けることのできない人はふるい落とされてしまいます。残った光り輝くものは、それほど多くありませんが、それは本当の黄金であり、本当に圓滿成就できる人です。修煉は取りも直さず、厳粛なことであり、関を乗り越え、難に遭う時は決していい加減にはしてはいけません。その時あなたがどのようにその一步を踏み出すか、いかに認識するかにかかっており、それは極めて重要なのです。その人の問題に気が付いたら、助けることができれば助けていいのです。その人に教え、目覚めさせてください。もちろん、修煉の過程で定められた一つ一つの関、一つ一つの難をいかに乗り越えるか、一つ一つの心をいかに取り除くかは、非常に大事なことであり、一旦そのチャンス

を逃してしまえば、二度と手にすることはなかなか難しいのです。特に重要な問題において、あなたが圓滿成就できるかどうか、重大な問題に際して、それを乗り越えられなければ、あなたは本当にそういう機縁を逃してしまいます。機会がまたやってくるかもしれませんが、私はそれを、かもしれないと言うしかありません。しかし、それは法を非常に深く学ぶことによって、しっかりした基礎を築いたため、はじめてその関をきちんと乗り越えられるようになるのです。何かの心構えがあれば、或いはこのようにすればきちんと乗り越えられるのではないかと思っても、できるようなことではありません。

弟子：先生に会ったり、或いは説法を読んだりする時、いつも涙が出てきますが、それを見て私がおかしいと思う人がいます。そのような人にどのように説明すればいいのでしょうか？

師：説明する必要はありません。あなたの修煉を他人に見せる必要はないからです。修煉の状態において、自分で自分を修め、自分が向上するということです。涙が出るということは、実は多くの学習者がこのような過程を経験し、多くの人にこのような過程がありました。ですから、この状況が現れたのはあなただけではありません。生々世々に今日法を得るのを待っている人がおり、本当に多くの苦を嘗め、様々な苦難を嘗め尽くして、やっとこの法を見つけたのです。皆さん考えてみてください。それはどういう気持ちでしょうか！ 人間に分かっている一面があり、分かっていない一面もあります。人間のこの最も表面的な一面は迷っており、分かっていないのですが、他の空間に存在している人間のもう一面は非常にはっきり分かっているのです。ですから、全ての人が行なった良いことや悪いことに対する評判と報いは必ず公平なのです。そんなことは知らないと言っても、ただあなたの表面が知らないだけで、知らないという空間に落ちて来たので、分からなくなりました。しかし、また分かっている一面もあります。

弟子：法を広めることに熱心な人もいれば、そうでない人もいます。それはどういうことと関係しているのでしょうか？

師：このようなことをする熱意のない人もいますが、修煉ができていないというわけではなく、非常に良くできている場合もあります。ただ彼にその熱意がないだけで、このような人は多くいます。

また、非常に熱心な人もおり、他人のために良いことをしたいと思っています

が、このような人も少なくありません。これはあなたの修煉、修煉できるかどうか、或いは圓滿成就できるかどうかに関係ありません。しかし、私が思うには、修煉者は何をしても他人のために考えなければならないので、最も良いものを得たらそれを多くの人に教え、多くの人を済度されるようにしたいと思っています。往々にしてこのようです。しかし、自分の何かの誓約を実現させ、或いは自分と縁がある前世の親友を探して、その人にも法を得てもらおうようにしているのかもしれない。

弟子：大法を信じない人は、将来のいつか、機会を逃したと気づくのでしょうか？

師：この機会はあるかもしれませんが、ないかもしれません。なぜなら、歴史上では従来淘汰された人がどうなるか全く重視していないのです。しかし、よく学んでいない人、つまり精進していない人が後に精進するようになったら、これらの人は後悔し、後悔する機会があります。

弟子：長年来待っていたのはまさに大法ですが、どうしてこれほど遅く大法を得るように按排されたのかと思ったりしたことがあります。

師：多分その人を全面的に見て決めたのだと思いますが、他の何かの原因も考えられます。なぜなら、この法を伝えた時、いかなる媒体、マスメディアにも宣伝してもらったことはなかったのです。私はずっとこの方法をとらず、このようにしなかったのです。多くの偽物、邪なものがみな広告で自分を吹聴しているため、本物まで人々に馬鹿にされ、人騙しのものだと思われるので、この方法は法にとって非常に厳粛でないのです。ですから、私たちはずっと広告で吹聴するような方法をとらず、できるだけ大法の厳粛さを保とうとしています。ですから、そのため法を得るのが遅くなった人もいるかもしれませんが、既に得たので、多く考えず安心して修煉してください。

昔、古人の言葉に「朝に道を聞かば、夕に死すとも可なり」とありますが、既に法を得た以上、まだ何を恐れるのでしょうか。どのように修煉していくかが大事なのです。実はまだ縁のある多くの人々が法を得ていないのです！ 私たちの実情を良く分かっていない無責任な宣伝媒体が、私たちに誹謗中傷する時、このような人たちはそのため機縁を失うかもしれません。これは最も残念なことです！ しかも今日の人類社会はここまで腐敗堕落したので、あの記者は自分の観念と想像に基づいて勝手に評論したり脚色したりしますが、本当にそれを調べようとせ

ず、自分が後天に学んだもの、認識したものが真理だと思っているので、あえてこのようにしています。現在、本当に多くの縁のある人、ひいては非常に縁の深い人がまだ法を得ていません。

弟子：大法を学ぶ前、私は同性愛者でしたが、色魔という問題に対してまだはっきり認識していません。どのようにこの問題を解決すればいいのでしょうか？

師：私が思うには、あなたがもしこの問題を解決するために、大法を学んだのであれば、解決されないかもしれません。なぜなら、法は非常に厳粛なもので、人を圓滿成就させるためのものであり、常人の何かの問題を解決するために伝えるものではないからです。しかし逆から言えば、もし確固として大法を修煉することができ、今からどんなことをしても、本当に修煉者としての基準、煉功者としての基準で自分に要求し、正々堂々と修煉すれば、この関はすぐ乗り越えられると思います。(拍手) 実は多くの方が関を乗り越えられない時、皆さんがずると人間のことを放棄できなかつたため、関は長引いたのです。もし本当に執着を断ち切り、自分の歩みたい道を歩めば、全ては変わります。特に学法を妨害するものを取り除けば、すぐ変わってしまうのです。

弟子：弟子たちが先生に敬意を表す時、人情的なもの、形式的なものが多いようです。

師：このことは私にも分かっています。しかし、以前皆さんからこれらのことを聞かれたことがあります。私は既に皆さんに解答しました。私は形式を重んじていませんが、今日のような法会、或いは集団煉功などの場合、そのような形式がなければ、修煉者が一緒にいる時に生じる和やかな場は形成されません。また修煉者同士が互いに高尚な認識を語り合うこのような環境も形成されません。それに対して、常人社会で人と人との間で話しているのはみな個人の利益に関することです。数千年来、人々は絶えず同じようなことを話しており、ただ現代化された言葉が加えられているだけです。修煉者として備わるべき環境がなければ、皆さんの修煉、皆さんの圓滿成就と精進に大きな困難をきたします。まさにある学習者の今日の発表のように、自分は比較的頭が良いと思っているので、家で二ヵ月学んで既によくできたと思っはっています。しかし、その環境に入ると、そうでないと気づきました。この環境があるので、お互いに促進し合い、向上できますが、これは非常に素晴らしいことです！ この世では既に浄土を見つけられなくなりました。宗教のところに行っても、彼らが今話しているのもお金と政治、

甚だしい場合、色情のものまで宗教の中に入っています。法輪大法のところだけは絶対きれいな浄土なのです。(拍手)

「どうして一億人以上の人がこの功を学んでいるのか？」と不可解に思う記者がいます。先ほどの私の話は皆さんへの解答です。ここはこの世に残った唯一の浄土です。人々の道徳が高尚になり、人々が良くなり、既に非常に悪くなった人も再び最も良い状態に帰することができます。大法以外、今これができるところはまだあるでしょうか？ 私たちのところはできるので、多くの人がやって来ました。

弟子：以前、化学療法を行なうために体内に人工血管装置が入れられましたが、それを取り出す必要があるでしょうか？

師：以前どんな手術を行なったにしても、何かをしたにしても、もうこれ以上構わないでください。本当に修煉する人になれば、どんなことでも起こり得るのです。以前、ある修煉者は足の骨にスクリューやプレートが入れられ、また一部の臓器も取り替えられました。そのうちそれらのものがいつの間にか無くなりましたが、身体は完全無欠の状態を保っているのです。(拍手) しかし、私は常人のためにこれらのことをしに来たのではなく、修煉者が圓滿成就できるように行なったのです。いかなる求める心を抱いても、何も得られません。

弟子：法輪大法を学んだ後、体内のエネルギー流はますます強くなり、今磁力で物を引きつけることができますが、同時に日差しからエネルギーを吸収する必要があります。

師：あなたに教えますが、最初は良いことだったのですが、その後あなたはこのことに執着し始め、執着心が生じました。このような機能があり、非常に良いことだと思い、この機能に執着していますが、修煉の目的、圓滿成就すること自体があなたにとって機能を得ることより重要でなくなりました。そこで、その作用が無くなり、ひいてはこの機能まで無くなります。太陽光を採集したり、他のエネルギーを収集したりすることにより、補充できるとあなたは思っています。しかし、その機能はますます弱まっていくとあなたは気づくはずですが。しかも、そのような補充は実は微々たるものです。

私は『轉法輪』や『洪吟』の中で、既に皆さんに「機能は小手先の技である」

とはつきり教えましたが、それは修煉中の副産物であり、くれぐれも機能を修煉の目標としてはいけません。さもなければ、あなたは永遠に圓滿成就できません。このことに対する執着を形成してしまうと、自分の圓滿成就という道のりに塀を立て、それを乗り越えることができなくなります。常人の心から全ての執着を放棄して、はじめて乗り越えることができ、圓滿成就に向かっていきます。在席の皆さんの多くは、私が簡単に何かをしてあげれば、彼の神通力が大いに現れてきます。しかし私はそうしてはいけません。私は皆さんを圓滿成就させなければならぬからです。修煉の中で、機能が自然に現れたら、それを重く見ないほうが良いと思います。気に留めないほうが良いのですが、あればあつたで、特に気にすることもありません。佛、神に比べたら、それは何ものでしょうか？ それはあなたが追求すべき目標ではありません。あなたが求めている目標は更に高く大きいもので、圓滿成就に至るものです。その時は神通が大いに現れ、できないことは何一つありません。もしあなたが本当に法に対して固い決意を持ち、私が言った通りにすることができれば、あなたのこの機能はますます強くなるかもしれません。なぜなら、修煉の中で全ての機能はみな、エネルギーによって強化されていくはずですから。あなたはこの話を聞いてこの正反両面の関係を理解したと思います。

弟子：修煉の過程で、本源ほど高い境地まで達していない時、本源物質の変化は可能なのでしょうか？

師：あなたは実は法をよく学んでいません。あなたの生命、あなたの生命を造成した最もミクロ的なところからあなたを変えている、と私は言っています。それでは、あなたの生命の最もミクロ的なものは、どこにあるのでしょうか？ それは皆さんに教えていません。非常にミクロ的であるかもしれませんが、そうでないかもしれません。この話の本来の意味は、あなたの最も表面的な部分がまだ本源ほど高い境地にまで達していないというのは、皆さんの全てが本源という境地にまで達していないのではなく、私は逆の方向から皆さんを修めさせているのです。

ご存知のように、昔、中国で修煉のことを言うと、多くの地区の人々はそれを理解することができました。通常人間が修煉する時、表面から変化が起こるのです。分子という粒子で構成された身体から変化し始め、それから分子につぐ第二層の粒子が変化し、絶えずミクロ的な粒子に向かって変化していきませんが、彼らの修煉の道はこのようなものです。ですから、一旦修煉すると、彼は非常に短い

期間内に、大いに神通力を現し、表面上完全に別の様子に変わってしまいます。しかし、皆さん考えてみてください。今日私が伝えたこの法は、常人社会で伝えており、修煉者の中で常人社会を妨害しないようにすると同時に、皆さんに修煉の環境を提供するには、その社会という環境を破壊してはいけません。ですから、皆さんの現れは常人と同じように、仕事があり、社会の中のことをしなければなりません。常人社会の人々はあなたに修煉の機会を提供し、トラブルや苦痛をもたらしますが、あなたはそこから向上し、業を滅するのです。一つ一つの関をきちんと乗り越え、あなたは昇華していくはずで。ですから、私たちの環境は破壊してはいけないのです。

この環境を破壊しないからこそ、皆さんはここで修煉できるようになります。それでは皆さんはこの環境に適応する修煉方式で修煉しなければならず、表面上の変化がミクロ的なところほど大きくないようにしなければなりません。以前は表面から人を変えていましたが、私は今日、あなたの生命の最もミクロ的なところから変えています。しかし、皆さんに教えますが、今までこのようにする人はいませんでした。今日の人間は非常に高い次元から来た人もいますから。あなたを済度する人もそれほど高くないのに、どうしてあなたの本源を変えることができるのでしょうか？ これを話したら、皆さんはお分かりになったと思います。つまり、今までこのようなことをした人はいませんでした。私は今日このようにしています。その本源のあなたこそ、本当のあなたです。あなたの念、考え、何かをしようという動機の源もそこにあり、それが本当のあなたです。常人の中に現れる言語、思惟形式は、一層一層を通して伝わってきたものにすぎず、異なる次元を通過するとき、その次元とその境地の観念が加えられ、最終的に人間のところで、言語、思惟、行為として現れてきます。

最もミクロ的なものが本当のあなたなので、私はまさに最もミクロ的なところからあなたを変えています。しかし、表面では全く変化がないというわけではありませんが、何といたってもあなたは修煉者であり、常人とは違いがあるのです。私はあなたの修煉に影響するもの、絶対多数の良くないものを取り除き、ひいてはあなたの修煉に影響する病まで除去します。「法輪功は本当に不思議で、修煉すると病気がすぐ治ります」と言った人がいます。そうです。本当に修煉する人は初めからすぐ変わり、病気がすぐ取り除かれてしまいます。もし病気除去のために来た人なら、取り除かれることはありません。なぜなら、私は常人のためにこれらのことをしに来たのではなく、修煉者が圓滿成就できるようにしているからです。

弟子：性愛のエネルギーは精神のエネルギーに転化することができるでしょうか？

師：皆さんに教えますが、それにはエネルギーはなく、ただの情と人間の熱量だけです。情に執着しすぎている時、人体の本能も加わり一種の興奮が生じます。しかし、医学専門の人は分かりますが、この興奮状態に達するには、熱量という物質が必要です。熱量が消耗されたら、おとなしくなり疲れてしまいます。ですから、若者は精力が余って使い道がなければ、歩いている時、飛び上がったたりしていますが、つまり熱量が余っているのです。ですから、それはエネルギーではありません。くれぐれもこれをエネルギーと思わないでください。

弟子：私たちが宇宙の真理に溶け込んだ時、どういう形式で存在するのでしょうか？

師：私はあなたにこのようなことを教えたことはありません。あなたは多分ほかの気功、特に道家の気功からこれらのことを聞いたのかもしれませんが、どこでもどんなことでも、ひいては一念であっても、法の要求と一致することができれば、これは即ち圓滿成就後の生命です。多くの方は佛に形象がないと言っていますが、これは中国佛教の禅宗の理論であり、佛も無く、形象も無いと言っています。ですから、法は六代までで、その後説くことのできるものはないと、達磨自身が言っています。中国古代において、文化大革命以前の佛教も、禅宗が牛の角先に潜ると思っており、その時、宗教界もずっと禅宗と議論していたのです。実は禅宗は宋の時代以降、つまり中国では一千年前に既に存在しなくなりました。しかし、達磨の講じた理が常人の哲学に非常に近いと後人は思っており、一部の人がそれを哲学、最高の哲学として試みています。その人たちは理性的でなく、あたかも哲理の根本を悟ったかのようなようです。実は、それは非常に次元の低い認識であり、低いので常人が受け入れやすかったのです。

佛には形象があります。佛の体が更にミクロ的な粒子で構成されているため、その体も物質によって構成されていますが、人間の目には見えません。しかし、見えないからといって、存在しないとは限りません。人間に見えるのは可視光線であり、全ての光のスペクトルの中で、人間に見えるのはごく少ない部分です。しかも、人間に見えた全ては光が照射したから見たのであり、可視光線で照射できないものは、あなたには見えません。だからと言って、そのものが存在しな

いと言えますか？ 現在、アメリカに多くの大きな天体望遠鏡があり、それによって、多くの可視光線以外の光でしか見えない天体を発見しました。例えばX線、ガンマ線、赤外線、紫外線などは、このような状態下でしか観察できませんが、それらのものが存在しないと言えるのでしょうか？ もしこの望遠鏡が発明されていない時、それらの天体が存在していると言え、頑なな人はそれを迷信だと言うのではありませんか？ つまり、私たちは今日佛の世界、佛が見えたと言っています、どうしてもそれを信じない人がいます。なぜなら、あなたの目は原子ではなく、分子で構成されているため、原子の粒子で構成された全てのものは見えないのです。しかし、佛の体は原子で構成されているので、あなたにどうして見えるのでしょうか？ つまり彼らはあなたの可視光線の範囲にいないからです。

弟子：地球上の生命は全て終わるのでしょうか？ それともある時期になると変化するのでしょうか？

師：これは私が説かない問題であり、ここで私は説きません。あるかどうか、私の考えでは、それに構わないほうが良いと思います。なぜでしょうか？ 皆さん考えてみてください。宇宙の中の全てはみな、偶然に存在しているのではなく、ただ人間は神の存在を信じていないだけで、神はあらゆるところに存在しており、宇宙の全てに遍く分布しています。人間は何でも敢えてしてしまい、人間の道徳は極限まで腐敗堕落しました。皆さん考えてみてください。現在の人間は思うままに行動しており、恣意に人を殺し、銃を持てば人まで殺し、思想観念にいかなる歯止めもきかなくなっています。人間の道徳が堕落したので、どんなことでも敢えてしてしまいます。多くの人々は人類がここまで堕落し、各地にこれほど多くの災難が現れていると言っています。人間が悪ければ悪いほど、災難が多くなります。

しかし、逆から言えば、今一億人が大法を学んでいます。どのぐらいの人が圓滿成就できるかはさておき、少なくともこれらの人は良い人になりました。もしこの全てが終わってしまえば、これらの良い人はどうなるのでしょうか？ 特に今皆さんは修煉しており、確固として修煉していますが、これらの立派な良い人はどうなるのでしょうか？ ですから皆さんに教えますが、修煉さえすれば、他のことを考える必要は全くありません。難があるかどうか構わないでください。あってもあなたと関係ありません。(拍手) しかし、悪い人は免れることはできません。

弟子：ある種の人、その身に付いているものと本人の忍耐力に限りがあるので、高い次元まで修煉できないと師父はおっしゃいました。

師：人類社会で、現在の人間にはどんな次元から来た人もいます。低い次元から来た人もいますが、このような人は高い次元まで修煉できないかもしれません。三界を出て圓滿成就するのは問題ありませんが、更に高い次元までは修めることができません。人間が法の中で修め、法を得ることができるのも、容易いことではありません。今回、生命の位置を配置し直しているのです、自身の身に付いているものが少ない場合、それを補充することができます。しかし、法を得る資格がない人もおり、また全く法を得られない人もいます。

弟子：大法の威力が全てを変えることができると思っていますが、大法はどうしてそのような人を変えることができないのでしょうか？

師：一般的な佛、例えば阿弥陀佛、釈迦牟尼佛、イエス、聖母マリアなどの如来は手を振るだけで、人類社会の全てが変わります。どうして変わらないのでしょうか？ どうして彼らはこのようにしないのでしょうか？ 人間自身が悪いことをし、どうしてもこのように行ない、人間自身がこのようにしたいからです。私が手を振ればあなたの業力は取り除かれ、良くないものは無くなります。あなたが引き続き悪いことをし、業を造っているのであれば、どうしてあなたのためにしなければならぬのでしょうか？ 人を救うには、これではいけません。人間に道理を分からせ、その人に心から自分を変えさせることが本当に人を救うことです。如来さえこれほど大きな力がある以上、宇宙大法が一人の人間を変えるのはあまりに簡単なことです。この間、例を挙げましたが、それはまだ非常に小さい例ですが、まさに溶けた鉄に木屑が落ちたら、瞬時に無くなり、全く見えなくなります。この大法の中で、人間はまさにその木屑のようなものです。なぜ私はあなたに自らを修めさせるのでしょうか？ もし本当に大法をもってあなたを造り直し、あなたを修煉させなければ、生命のミクロから表面まで、将来、永遠にあなたではなくなります。あなたの一切の記憶、思想、存在方式まで変わり、自分が誰なのかも分かりません。それは再び造り直すということです。それは非常に恐ろしいことで、人を済度するというものではありません。どうして人を済度するのでしょうか？ 法にはこの力が無いのではなく、法は人間に一つの機会をもたらしているのです。

弟子：どのように修煉の中の魔難に対処するのでしょうか？ 先生も私たちが修

煉の時に遭った魔難を経験されたのでしょうか？

師：新しい学習者から出された質問です。私は従来私個人のことを話したくありません。しかし一つだけ皆さんに教えます。皆さんは修煉者ですが、私は違います。皆さんはみな、修煉者の基準に基づいて行なわなければならない、誰一人例外はなく、皆、圓滿成就の境地と基準に到達しなければなりません。しかし、私は皆さんと違って、この法を教えに来たのです。私を受けている難は各次元の衆生の難であり、私が遭ったことは誰にも教えることができず、皆さんはそれを理解することはできません。修煉は非常に簡単だと皆さんは思っていますが、私も皆さんが修煉できるよう、皆さんの業力の半分を滅したとしか教えていません。実は考えてみてください。この宇宙において今まであなたがした悪いことは、あなたが修煉したからといって、追及せずに済ませていいのでしょうか？ イエスがなぜ十字架に磔にされたのか、その理由は私に分かっていると以前話したことがあります。父のエホバはイエスを解脱させることができなかつたのでしょうか？ 彼自身の力で自分を解脱させず、どうしても十字架に磔にされなければならなかつたのでしょうか？ これらのことは皆さんが想像できることではなく、人を済度することは非常に難しいことなのです。一部の人は常人として生々世々に悪いことをしたため、造った業を持っています。この借りは永遠に人間を縛り付けており、生々世々にそれを解くことができません。それに対し、一部の人は異なる次元から落ちて来た時、異なる次元の借り、異なる次元の神に借りを造ったのであり、どのように返すのでしょうか？ ですから、人を済度することはさほど簡単なことではありません。宗教の中で、圓滿成就したら人を済度すると言っている人がいますが、私に言わせれば、それは執着心です。人を縛り付けている、人を済度する者よりも遥かに次元が高く、広く縦横に交差している怨恨の網をどのように解くのでしょうか？ 人を済度することはそれほど簡単なことなのでしょうか？！ このことについてはこのぐらいにしましょう。

弟子：先生を偶像化しないようにするには、どのようにしたらいいのでしょうか？

師：私は学習者の気持ちを非常に理解しています。私が皆さんを業力に満ちた常人から修煉者に変え、皆さんに何を与えたのか、何を取り除いたのか、皆さんははっきり分かっており、その感謝の気持ちはとてもよく分かっています。ですから、師父に対して形式上、敬意を表したい人がいます。尊敬させないことはできませんが、なぜなら、なんとと言っても私は皆さんの師父ですから、私を尊敬すべきです。しかし、私は形式上のことを重んじません。一部の学習者は多くの学習

者のように認識がまだ高まっておらず、尊敬しなければ、師父に申し訳ないと思っていますが、実は間違っていない。しかし私はこの道理を話したことがありますが、佛を拝み、多くの廟を建てれば、成佛できると思う人がいますが、それは笑い話です。釈迦牟尼は有為の法は幻のうたかただと言いました。それは有為のことであり、何でもありませんが、ただ常人が徳を少しばかり積んだにすぎません。その廟は本当に佛のために建てられたと知っているのでしょうか？ あなたが廟を建てたら、佛は必ず行くのでしょうか？ そこに廟を建てたから、佛は必ず来ると思っていますが、来るように命じたら、佛は来なければならないのでしょうか？ このようなことではありません。また叩頭したから佛は必ず私の安全を加護し、圓滿成就させてくれなければならないと思っている人がいます。尊敬されたからといって、佛は常人の心のように、お世辞を言われたら喜ぶのでしょうか？ 常人のように、毎日お世辞を言われたら、あなたを昇進させ昇給させるのでしょうか？ 人間は佛を人間化してしまい、情をもって佛を考えていますが、全くそのようなことではありません。ですから、どのように私に敬意を表すべきかを皆さんには教えませんでした。しかし、ある地区の学習者には、そのような民族の習慣があり、そうしたほうがいいと思えば、それも彼の間違いではありませんが、ただ大法は形式にこだわっていません。

このことについて、私は数回にわたって話したことがあります。どのように行なうのでしょうか？ みな自分で自分の思うように行なっています。しかし、私たちの今日の法会の場合、この形式をとらなければなりません。皆さんは一緒に修煉しており、この場に入るとみな、非常に和やかな感じを覚えます。心の中で良くないことを考える人はおらず、発したのはみな、慈悲で良いエネルギーです。皆さんが話したのは全て修煉に関わることで、どのようにしてよりよく行なえるかなどです。この環境はなくてはならないものです。体験を話し合うことによって、お互いの差を見つけ、他の人も精進できるようにしていますが、これは非常に良い形式です。しかも、この形式はまた、みな自発的に行なったのであり、お金を出して劇場を借りた人もいれば、資料を印刷した人もおり、他のことにお金を出した人もいますが、みなこのようにしました。輔導站は全くお金を蓄えず、実際担当した人が自分でそれをやり遂げ、全ての手続きを終えてから、輔導站到りて使用するだけです。往々にしてこのようです。

ある新聞で見た記事では、李洪志はお金が要らないのですが、彼の弟子はニューヨークで法会を開き、三万五千ドルで会場を借りたというのです。その気持ちは非常に素晴らしいのです。偉大な法のため、神聖な法会のために、このように

したのであり、彼の心の中で、最も良い会場だけが大法に適していると思っていました。人類は大金を払ってでたらめなことをしてもいいのですが、神聖で偉大な法会のために、どうして良い会場を借りてはいけないのでしょうか？ しかし、皆さんもこのことに気を付けてください。今後、できるだけあまり高い会場を借りないでください。今後気を付けてください。三万五千ドルはアメリカではそれほど高額ではないようですが、中国ではそれが数十万元になります。しかし、このお金を私は見たことがなく、影さえ見ませんでした。ただ学習者は三万五千ドルの小切手で会場を借り、この日に使用可能だと輔導站到伝え、それだけです。確かに三万ドル以上かかりました。それは学習者の気持ちで、大法に対する真心です！

記者もここにいるので、ついでに皆さんに言うておきます。「李洪志は百万長者ではないか？」と言っている人がいますが、私を百万長者、億万長者、千億万長者と思ってもいいのです！ なぜなら、私が持っているものは人類の全ての財産でも換えられないものだからです！（長時間の拍手）

実は、別の角度から言えば、私にお金があるかどうかは大事なことでしょうか？ 例え私にお金があるとしても私は気にしません。例えば、一億人の学習者が法を学んでいますが、もしみなに一元くださいと話したら、皆さん考えてみてください。みなが一元ずつくれれば、私は即ち億万長者になりますが、しかも皆さんはいつでもそれをくれるのです。あなたは私を億万長者と思ってもいいのです！ また本の販売からいくら儲かったかと、あちこちで私を調べている人がいます。皆さんに教えますが、私が中国で正規の出版社を通じて出版した本の原稿料は、一回数千元ぐらいで、全て合わせて二万元ほどでした。換算すると数千ドルでした。中国の出版社は政府が経営しているので、他の国の出版社のように原稿料を支払わないのです。このような状況です。他の地区で本を出版する場合、契約を結んだら、著者に五パーセント、六パーセント、七パーセント、最も多い場合は八パーセントの原稿料が支払われます。しかし、私が受け取った原稿料は非常に少なかったのですが、ほぼこのお金で生活しています。皆さんに教えますが、このことに執着する必要はなく、調査しても意味がありません。私は苦勞してお金を稼ぐ必要があるのでしょうか？ それぞれ十元くださいとみなに一言だけ言えば、私は十億の金持ちになります！ これはなんと痛快なことでしょう！ しかも皆さんは喜んでお金をくれるし、私も正々堂々とお金をもらうことができますが、わざわざ手間をかける必要があるのでしょうか？ ですから、時に人間の動機は不純で、偏狭に物事を考えており、非常に馬鹿馬鹿しいのです。

弟子：先生が私たちの業力を取り除いてくださった後、その業力はどこへいったのでしょうか？

師：私はそれを消してあげました。(拍手) 人を済度することは非常に難しいことです。ある法会でこのことを話したと思いますが、ある人がもし、一生のいつかに脳血栓に罹ると運命付けられたら、それは彼の業力による応報であるため、必ず脳血栓に罹ります。しかし、彼は大法を学んだので(大法を学んだからといって、業を返さなくてもいいということではありません。それではいけません)、私は彼が楽に耐えられる程度まで、その多くを消してあげましたが、その状態はやはり現れます。彼はある日、急に倒れ、現れたのは脳血栓の症状です。しかし、彼は自分を煉功者と見なしませんでした。それでも、なんといっても業は既に消されてしまい、それほどひどくならなかったのです。もし自分を煉功者に見なし、頑張っただけで立ち上がれば、すぐ何事もなくなります。このように関でした。しかし、彼はこの関を乗り越えられず、関は既に小さくなりましたが、やはり乗り越えられませんでした。しかし、なんといっても関は小さくなったので、彼は三日後にベッドから離れることができ、一週間後に歩けるようになり、一ヵ月後に何もなかったかのように回復しました。脳血栓になり、病院で治療してもらってもこれほど早く回復することはありません。彼はかえって、「法輪功を学んだのに、どうしてまた脳血栓に罹るのか？」と言いました。これは私が法を伝えた当初のことで、人を済度するのは確かに難しいと当時思いました。彼のためにこの難を受け持った時、私が一杯の毒薬を飲まされたと言ったと彼は知らなかったのです。(拍手)

弟子：情は観念を通じて作用していますが、現代の変異した人間の変異した観念は情を濫用しています。

師：変異した観念が情を濫用しているのではなく、人間は何も信じず、いかなる道徳上の束縛もなくなりました。ご存知のように、昔は宗教があり、少なくとも悪いことをしたら将来罰が当たると人々は分かっていました。しかし、現在の人、特に若者は「何の懲罰？ どこに神がいるのか？」と馬鹿にしています。それを信じず、神の存在も信じません。皆さん考えてみてください。悪いことをしたら神に見られ、将来応報があると知らなければ、いかなる束縛も無くなり、その人は何でもやってしまうのではないのでしょうか？ 殺人、放火など、悪事の限りを尽くしています。

なぜ古人や昔の人間の道徳は高尚なのでしょう？ 実は人間は非常に低能で、道徳が本当に高尚だったのではなく、悪いことをしたら悪報、良いことをしたら良い報いがあり、人間は善をもって生きるべきだと分かっていたからです。現在においてこの束縛は無くなり、教会に行くことを教養のあることだと思い、寺院に行くことを、財を求め、後継ぎを求め、加護や災難の消去のためだと思っており、本当に信じているのではありません。皆さん考えてみてください。今日のような社会は完全に道徳によって制約されなくなっているのです、人間は敢えて何でもやってしまうのではないのでしょうか？ このような人間はひたすら自我の個性を強調し、やりたい放題に行動しています。本人たちはやりたい放題にやっており、それが良いことだと思っていますが、神はそれを良くないと思っています。忘れてはいけないのは、あなたは神によって造られたので、神があなたを良くないと思えば、あなたを見捨て、消滅させるのです！

弟子：今まで宇宙の衆生は宇宙の法を知らなかったのですが、修煉して圓滿成就した弟子を含む未来の宇宙の衆生は、自分の次元における宇宙の一切の法理を知ることができるのでしょうか？

師：皆さんに教えますが、皆さんが知り理解しているのは、本を読んで法に則って理解したものであり、皆さんが知っているのは宇宙大法があなたに悟らせた部分であり、本当の法を皆さんに知らせることはできません。人類だけでなく、宇宙の全ての生命にも、法の具体的な存在形式を知らせません。私はただ常人の言葉、常人の思惟形式でこの道理を概括的に教えただけです。法の本当の存在方式に関して、皆さんはそれを知ることができません。多分皆さんの思想の中にこのような意識があり、将来宇宙の中に法があると知っていますが、その具体的なことを知る術はありません。なぜなら、異なる次元や境地にいる生命には異なる境地の状態があり、その生命はその次元においては神ですが、彼より次元を遥かに超えた神は振り返って見れば、彼をも常人と見なしています。基準は上に行けば行くほど高くなります。

弟子：純粹で清らかな心で『轉法輪』を通読し、トラブルに遭えば内に向けて探し、正々堂々と修煉していれば、勇猛邁進していることになるのでしょうか？

師：これは既に精進していることの表れです。もしこれができれば既に精進しているのです。圓滿成就したければ、関を乗り越えることもあるかもしれません。学習者の法に対する理解は既に非常に深まっていると分かっています。私はモニ

ターで皆さんの発表を見ましたが、学習者はみな成長したと思います。確かにそうです。国内の学習者はかなりの成長を遂げましたが、彼らは数年前から既に精進していたのです。今、海外の多くの学習者もますます成熟し、法に則って法について語る事ができ、これは非常に素晴らしいことです。

弟子：私たちは宗教ではありませんが、未来の人類は私たちを宗教と見なします。法を広める時、人々に出来るだけこのような印象を与えないためには、どう注意すべきでしょうか。

師：各地の状況は違うので、法を広める時、確かにこのことに気を付けるべきです。他の人に法を得させ、縁はあっても法を得ていない人に法を得てもらうために、社会で特にこの方面に気を付けるべきです。人々に私たちが宗教であるかのような印象を与えないでください。しかし、近代の白人は人々が何か功を煉っていると、すぐそれを宗教だと言っていることに私は気づきました。彼らには宗教の概念に関して基準がありません。

弟子：修煉して圓滿成就した時の次元は、実はその人が乗り越えた生死の関に直接関係しています。

師：このことに関して、この間のオーストラリア法会で既に説きました。実は皆さんの修煉は、修煉者が最後の一步まで歩んだ時、その人が圓滿成就できるかどうかを判断するものではありません。この人の修煉の過程で、ほぼできた時、彼に対して圓滿成就できるかどうかの試練を始めるのです。したがって極めて重要なことです。修煉者でさえあれば、誰でもこのことにぶつかりますが、しかもこの関は一人の人間にとって、あたかも生死の試練のようです。もちろん、誰かに殺されるとか、あなたに何かをするようなことは誰でもぶつかるとは限りませんが、必ずそうなるとは限りません。私が挙げた例のように、自分の将来、仕事や事業を肝心な時に放下することができれば、その人はこの関を乗り越えたのではありませんか？ 人間は何のために生きているのでしょうか？ 常人の中で明るい前途があり、自分が満足できる事業があり、ひいては理想の目標に達したいのではありませんか。もしこの全てが彼の目の前にあり、本当にこれらのことが脅かされた時、そこから抜け出すことができるかどうか、もし本当に抜け出すことができれば、この生死の関を乗り越えたのではありませんか？ 人間はこのために生きているのではありませんか？ 彼がこれらまでも放下する時、つまり生死を放下できるのではありませんか？

人間は肝心な時に生死をも放下し、失いたくないいわゆる幸せを放下し、その一歩を踏み出すことができるかどうか、その心を放下できるかどうか、それはあなたのために設けた関ではありませんか？ 私は幾度となく言っていますが、いかなる偶然もありません。どうして他の人はその一歩を踏み出すことができるのでしょうか？ どうしてあなたにはできないのでしょうか？ あなたはまだ自分が正しいと思い、他人を説得しているのです。

弟子：業力があるので観念が存在し、業力が無くなれば、観念も無くなるという言い方は正しいでしょうか？

師：観念と業力は次のような関係にあります。人間が生まれた時、思想は純粹で清らかで、後天的に形成された固定観念は何一つありません。人間はこれが良い、あれが良くない、このことはこうすべきだと思ううちに、次第に人間の観念が形成されます。特に子供をしつける時、どのように自分や利益を守り、他人をやっつけるかを教え、意識的に子供に悪人の振る舞いを教えていますが、またそれを良い経験だと思っています。普通の成人として、もしこれらの観念がなければ、あなたは最も理性的な人間です。何でもはっきり分かっており、何でも知っています。どんな問題を量ってもいかなる観念にも陥ることなく、遭遇したこと、ぶつかったこと、見た全ても一目瞭然です。それこそ本当の自分であり、智慧なのです。

ある人は何かの問題にぶつかった時、どのように解決すべきか、どのように円滑に対処すべきかが分かり、それは常人の言う小利口であり、智慧ではありません。後天的に形成された各種の観念によって、あなたは更にずる賢くなり、私利を守るようになりますが、これで悪事を働き、業を造るようになります。あなたが自分の利益を守るために、これらの観念を形成したので、その観念で悪事を働く時、業力が生じます。あなたの行動はこれらの観念に振り回され、何かをする時、業力が生じることがあります。しかし、業力は観念ではありません。自分の人生が悪くないと思う人もいれば、自分が賢く、能力があると思う人もいます。他人と苦しく争い闘うことによって、僅かばかりの利益を得たのですが、私から見れば、彼は非常に苦しく生きており、何のために生きているか分からないのです。自分は賢くて、何かをしたい時、自分の思想でそのようにしていると思っていますが、実は彼の観念が彼を制御し、コントロールしており、自分の本性はないのです。現在の社会で生きている絶対多数の人がこの状態であり、本当の自分

で生きている人はどこにいるのでしょうか？ 人間はこのようであり、そこから抜け出すことができないため、観念は必然的に形成されますが、ただ多いか少ないかの違いがあるだけです。

弟子：同じ次元にいる人間であっても、その本質や由来が大きく違っていますが、低い次元から降りて来た人間には、高い次元から来た生命の本源物質が備わっていないのでしょうか？

師：人間はみな、人間という境地にいますが、その源が違います。ですから、更に高い境地にある彼の生命の本源を構成した、更にミクロ的な粒子が備わっていない人がいます。つまり生命を造成する最も基本的な粒子が違います。境地がそれほど高くなく、それほどミクロでない生命もありますが、つまりこの意味です。ですからこれは違うところなのです。

しかし、在席の皆さんにとって、これらのことを考える必要は全くありません。あなたの生命はその人ほどミクロではないので、そこまで修煉できないのではないかと考えているのですか？ 実はあなたは人間の考えで想像しています。まず、あなたが元に戻ることができるかどうか、圓滿成就できるかどうかの問題です。あなたが圓滿成就し、本当に元に戻れる時になると、自分がこのような考えではないと気づきます。宇宙はとてつもなく大きいのですが、人間が考えるようなものではなく、人間はいつも高望みをしています、全く違います。例を挙げて説明すれば、どこへ行っても、やはり自分の家のほうが良いと感じ、家に帰りたいた人がいますが、この喩えはまだ適切ではありません。つまり、あなたはその時、人間の考えでなく、自分の所が最も素晴らしいと思ひ、どこよりも素晴らしいのですが、いくら次元の高い所もあなたのいる所ほど素晴らしくはありません。それは完全に別の思惟方法です。

弟子：返本帰真の現れと、執着によって現れてきた新奇をてらうことを、どのようにに区別するのでしょうか？

師：理性的になり、法と照らし合わせることです。法に符合していないこと、大法の仕事をする時に現れてきた常人としての行為、これらは全て取り除くべきです。もし具体的なことを行なう時、例えば法を広める場合、人に法を得てもらっただけでなく、大法のイメージを損なうことなく、人を無理強い引張らないよい方法があれば、それは正常で、適切なことであり、執着と新奇をてらうことで

はありません。人に法を得てもらうために方法を考えるのは、本当に人の命を救うことであり、圓滿成就し、生命の本来の場所に戻りたいことと同様に、執着ではありません。皆さんに教えますが、在席の皆さんは修煉の真っ只中におり修煉していますが、つまり皆さんにまだ常人の心があるのです。出した質問、考えていること、他人について話したこと、お互いの間のことに、あなたも含めて執着があるかもしれません。なぜなら、皆さんに常人の心があるからです。もし名や利を求めるために大法の仕事に携わっていれば、この心が取り除かれられない限り圓滿成就できません。しかし、逆から言えば、もしあなたが心から大法のために何かをしようとすれば、まず大法に立脚しなければならず、あなたの考えは二のことです。大法を顧みず、一途に自分ばかりを強調しているようでは、間違っていると思います。大法が第一なのです。

弟子：真・善・忍は永遠に変わらないものですが、もし生命がますます不純になってしまえば、真・善・忍まで変異してしまうのでしょうか？

師：生命が純粹であるかどうかにかかわらず、法は変わらないのです。このように説明しましょう。真・善・忍の三文字はいつまでも真・善・忍であり、他の読み方にしてはいけないのではないのでしょうか？ 生命がその基準に近いか遠いかに至っては、それは生命の問題なので、私たちは法、不動の法をもって、法から離れてしまった生命を絶えず修正しますが、これが即ち、圓容なのです。

弟子：息子は十五歳ですが、手に負えないので、彼を収容所に入れました。私は息子を愛し、彼を助けることなら何でも喜んでします。これは執着でしょうか？

師：皆さんの修煉の過程で、このような親の愛は今それが執着とは言えません。しかし、弟子の皆さんに教えますが、実は人間それぞれに運命があるのです。親としての責任を尽くし、子供が既に自分の観念を形成し、或いは既に大きくなったら、あなたはなかなか彼を変えることができません。もちろん子供に対する教育は、親のすべきことですが、どうしても手に負えず、子供がどうしても何かをしようとすれば、親にも為す術はありません。子供が罪を犯さない限り、あなたはどうすることもできません。もちろん、彼が罪を犯したら、法律をもってやめさせることができます。罪も犯さず、行ないも悪く、しかもいくらしつづけても聞き入れなければ、大法を学ぶ以外に本当に仕方がありません。

人間それぞれに運命があり、誰も他人を左右することができず、あなたの実子

でも同じです。子供に将来こうなってほしい、ああなってほしいと思っていますが、皆さんに教えますが、億万の財産を残してあげても、もし子供にその福がなければ、火事で全て焼き払われ、或いはすぐお金を使い果たしてしまいます。彼にそれを相続するほどの福がなければなりません。つまりこういう運命がなければなりません。「子供をどこかに勉強に行かせたいと思い、努力して実現できた」と思っている人がいます。実は子供にこのような運命があるのです。あなたが執着して放棄しない努力も、常人として必然的に行なう行為であり、なぜなら、ベッドに横になり、天から望んでいるものが落ちてくるのをひたすら待つことを決してしないからです。その時になるとそうなるのだと教えても、信じないので、相変わらず走り回り苦勞するのです。人間は取りも直さず人間なので、その苦勞も必然的なものになりました。子供がまだ成人になっていなければ、教育を続けることができます。もし既に大人になり、手に負えないのであれば、それもあなたの間違いとは言えません。

弟子：副元神に制御されている人たちを助け、その主意識を強めるにはどのような方法があるのでしょうか。

師：皆さんに既にお話しましたが、私は修煉者のためだけに責任を負うのです。もし修煉者であれば、このような問題はありません。以前このような問題がありましたが、その時あなたは修煉していなかったのです。今修煉している以上、正々堂々と修煉し、全てを放下して一心に修煉すれば、どんな問題も解決されます。なぜなら、あなたは修煉者だからです。もしこの問題を解決するために修煉しようとするれば、それではいけません。なぜなら、あなたはまだ完全な煉功者、修煉者ではなく、まだこの問題を解決するために修煉する気持ちがありますが、僅かばかりの心でもあれば、あなたはまだ自分を完全に修煉者と見なしていません。

どんな方法があるのでしょうか？ ご存知のように、今一億人以上の学習者がいます。一億人の中で、これより深刻な問題を抱えている学習者は多数いますが、みな、解決されました。しかもあなたが質問で言及した人に存在しているのは副元神の問題ではないかもしれません。あなたは彼の本当の状況が分かっていません。ですから、本当に修煉しようとするれば、その考えを放棄し、何も考えないように私は言いました。しかし、これはまた難しいことです。なぜなら、いかなることにも因縁関係があり、偶然はなく、もしかすると、彼に以前誰かと恩讐があったかもしれません。ですから、本当に自分を修煉者として扱わなければなりません。しかし、またこのような魔難にぶつかり、しばらく続くかもしれません。

その人がいかにこの問題に対処するか、心が固まっているかどうかを見たいと思います。本当にそのことを気にしなくなり、心を固め、修煉者としての心の状態に達することができれば、知らないうちに何の問題もなくなり、あなたのために良い状態に調整したかもしれません。ですから、修煉は極めて厳粛なことであり、児戯ではなく、決して常人のようにお金を払って誰かに解決してもらおうようなことではありません。これはお金では換えられないのです。

弟子：常人の中に迷い込んでしまいましたが、根基の良い人は、真相が現れた後、また人間になる機会があるのでしょうか？

師：あなたは考えすぎており、これらのことはみな、将来のことです。宇宙の衆生が宇宙の法から外れた時、宇宙で法が正され、異なる次元に適していない全ての生命は次元が下がり、それでもその次元に適さなければ再び下がり、このように下がっていきます。下がった生命、落ちて人間になる生命もありますが、人間にもなれない生命もあります。つまり全ての生命はみな、それぞれ自分の位置を配置しています。それは彼らの行為、彼ら自身の境地の如実な体現によるものです。今日の人類社会の全ての行為にみな、判断基準があり、つまり、人間も自分の未来のそれぞれの位置を決めています。人類社会がこのように尽きることなく腐敗墮落してはいけけないので、消滅される生命もあり、修煉によって上がっていく生命もあります。人間になる生命もいれば、他の何かになる生命もあります。言い換えれば、全ての生命は大法に対する態度によって自分の位置を決めているのです。

弟子：多くの時に、道理からどうすべきか分かっているけど、本性からの願望でないから、人の心を打つことができません。

師：皆さんは修煉の過程で、時には常人のことや世間の何らかのことに対して、無関心な状態が現れてきます。学習者にもまだ常人の心があるので、学習者同士で何かを話す時、つまらないと感じる時もあり、このような状態が現れてくることもあります。しかし、もし法を学ぶことに無関心であれば、それは問題です。大法の仕事をする時、もし語ったことが法に則っていれば、人の心を打つことができますが、そうでなければ人の心を打つことができません。

弟子：大法を学びたい西洋人の学習者が今、漢方医学の『黄帝内経』を学んでいます。それは授業内容なので、影響されるのではないかお尋ねします。

師：影響されることはありません。なぜ影響されないのでしょうか？ このような場合、私たちはそれを全て仕事、常人社会のことと見なしています。ですから、あなたが学んだのはただ常人の技能であり、このことに対して、別の処理方法があるので、影響されることはありません。

弟子：結跏趺坐がまだ非常に難しい段階で、大周天が通る可能性がありますか？

師：つまり足を組んでまだ非常に辛い時、周天が通るかどうかですね？ この意味ですね？ 修煉の中で絶対に一致した按排はありません。あなたがいくら辛くても、単一的な形式として存在することはありません。痛みを感じている時、それは業を滅する時の現れであり、同時に身体は煉功中に変化していますが、全て相補っています。しかし、時に足のストレッチをしたり、煉功しない時も足を組んだりしますが、皆さんは修煉者なので、随時に何らかの機会を利用して、あなたを向上させます。

弟子：もしある日、弟子が迫害される対象になったら、どのように法を学ぶのでしょうか？

師：いかなる状況下でも、確固として大法を修めればいいのですが、どうして人間に迫害されることを考えるのでしょうか？ 修煉者としてあなたの身の周りやその後に発生したことはよく分析すると、それなりの道理があるのです。

弟子：出世間法を何回も修煉する意義は何でしょうか？

師：つまり繰り返して修煉するということですね？ 確かにこのようにして、あなたが圓滿成就すべき境地までずっと修めるのです。天上の神があなたに難をもたらすことはないので、人間のところで修煉しなければなりません。非常に高い次元に達するために、一回終わってはまた最初から修め、あなたが到達すべき基準まで続きます。上のほうの功が伸びており、次元を突破していますが、あなたはまだ人間のところで修煉するということです。このようなこともあります、全ての人がそうではありません。

弟子：額に現れた丸い形を注意深く見ている学習者がいますが、これは出世間法を何回も修煉することと関係しているのでしょうか？

師：このようなことではありません。実は修煉の過程で、身体の変化は次元に応じてその状態があり、全て異なっています。もし自分の修煉の状態を見たら、皆さんはまず驚いてしまい、それからあなたの心が耐えられなくなります。神佛の偉大さと壮観な光景、更に人間の言葉で表現できない複雑な状態、及び各次元の外観にある具体的な状態の現れに、耐えることができません。ご存知のように、各次元に異なる表現形式があり、頭から足まで、身体の周りの場まで変化しており、突破が非常に速く次元の向上が速い時、それは毎日変化しているのです。皆さんもこのような佛像を見たことがあると思いますが、佛の頭上に頭が四つあり、四つの頭の上に更に三つあり、その三つの頭上にまた二つあり、その二つの頭上に更に一つあり、組み立て体操のようです。これも佛の真実の形象であり、異なる次元での表現形式であり、荘厳かつ偉大で、人間の考えで想像できるものではありません。

弟子：修煉は多くの苦を嘗めなければならぬと分かっていますが、日々の暮らしを愛し、美しいものに憧れており、物事をきちんと行ないたいと思っていますが、これは執着でしょうか？

師：修煉の過程において、これは執着とは言えません。どうしても幸せな生活を放棄し、何の憧れもなく、仕事をきちんと行なわなくてもいいと、私はあなたに教えていません。かえって自分の仕事をきちんとこなすように要求しています。そうでなければ、どうして良い人であり得るのでしょうか？ どこにいても良い人であって、はじめて本当の修煉者になります。ですから、修煉の過程で、ただ本を多く読み、法をよく学び、自分を修め、関や難に遭う時、厳しく自分に要求し、トラブルに遭う時、内に向けて探すように、皆さんに教えただけです。このようにすれば、次第にあなたの境地は高まっており、出した質問に新しい見方、新しい認識が現れてくると思います。しかし、これはあなたが人為的にどうこうしようと思って現れたのではなく、修煉の過程で自然に昇華し再認識する際の現れです。

弟子：私は十歳の子供弟子です。煉功の時に足が絶えず震え、それを制御しようと思う時、動作が中断されてしまいます。

師：これは一時的な状態です。子供なので、足を組む時に大人のように死ぬほど痛むようなことは決してさせませんが、業を滅する時の状態が現れることもあり、それほど辛くないかもしれません。これはある状態での現れで、そのうちによく

なります。

弟子：先生は超物質の概念に言及され、それが私たちのこの空間より更に物質的だとおっしゃいました。

師：またこのようなことに興味があるようですが、師父は皆さんに物理の授業をしているのではありませんよ。私はただ宇宙の構造に触れ、皆さんに現れた昇華の状態と関連がある時、宇宙の構造に触れただけなので、これらのことに執着しないでください。今宇宙の構造を皆さんに全て教えてはいけません。しかも宇宙は非常に複雑で、人類の言葉で言い表すことはできません。スイスで説法した時、宇宙について話したことがあります。はっきり説明するのが非常に難しかったので、本にまとめる際にその部分を念入りに修正しました。ですから、皆さんはその本を読んだほうがはっきり理解できるかもしれません。実は、その程度までしか説明できず、それ以上ははっきり言い表す言葉もありません。しかも常人の言葉で話すと本来のことと違ってしまいます。

弟子：私はいつも法輪功の音楽が聞こえますが、時に寝ている時でも聞こえます。

師：みな良いことです。大法の音楽なので、修煉の中で大法の音楽に既に法の一面が現れ、しかも法の背後の内涵もあります。

弟子：年初のカリフォルニア法会の時、師父は「四大」について言及なさいましたが、もっと詳しく話していただけますか？

師：実は「四大」は釈迦牟尼佛が最初に言い出したもので、つまり地、水、火、風という四大です。それはその境地において宇宙が存在する原因の現れですが、最終的な原因ではありません。ですから、皆さんにとって、まさに宇宙のように、あなたに宇宙全体が見えた時、それが宇宙だと思いますが、実はそれはただある小宇宙の範囲にすぎません。同じ宇宙は数え切れず、宇宙の更に大きな範囲に分布しており、まるで分子がこの空間の至る所に分布しているように、ここの全ては分子によって構成されています。つまりこのような概念です。それはある一定の境地に現れた一種の宇宙の形式です。しかし、その境地に大法のその境地での現れとしての法があります。その境地が法の基準から外れてしまえば、その境地以下の系統全体もだめになってしまいます。ですから、長い年月の中で、法から外れたため、その「四大」まで風化し、解体されそうになっていることに私は気

づきました。しかしこれは既に更新される前のことです。

弟子：生命は増えることも減ることもなく、ある一定の宇宙天体の次元に存在しています……？

師：生命が増えることも減ることもないということは、間違いないことです。もし、ある生命がその境地で消滅させられたら、同じ次元で一つの新しい生命が生まれ出されます。実は地球上には歴史上、一人も多くなったり少なくなったりすることはありませんでしたが、今、この話をしても人間はそれを信じません。中国は今、一人っ子政策を実施していますが、多くの中国の政策に関わっているのです、これらのことはこれ以上お話しません。今、西洋社会は人口が非常に少ないのですが、多分みな中国に転生し、法を得に行ったのかもしれませんが。(拍手)

実は、あなたがヨーロッパ、南アメリカ、北アメリカ、アフリカ、オーストラリア、またアジアの人であっても、あなたは本当の黄色人種や白人でないかもしれません。ですから、アメリカ社会では、多くの白人は黒人やインディアンが転生し、また多くの黒人は白人が転生したのです。ですから、これがなぜ多くの白人が黒人の利益を守るかの理由です。

弟子：観念は人間の一生を左右し、もしそれを換えなければ、人間を左右し続けると先生はおっしゃいました。

師：そうです。私は次の話をしたことがあります。白人が法を得る場合、道理から教えれば、見てすぐこれが真理だと分かります。道理から後天的に形成された観念をすぐ破り、真理を遮断し、真理を見せない殻をすぐ割ってしまいます。しかし、中国人は違います。中国人には古からの観念があり、五、六千年の文明の歴史、諸子百家から現在にいたるまでの各種の学説、諸子百家以前にも更に各種の信仰があったため、それらの観念が形成され、生々世々に形成されたものはみな、あなたの生命の全体に蓄えられています。あなたの生命は死亡することなく、この肉体だけが衣服のように一生一生変わります。一世一世に先天的に備わっている状態と印象が現れてきますが、もちろん常人には察知しにくいのです。

中国人の文化は深遠であり、多くの代のものもありますが、これらのものは中国人に多くの経歴をもたらしたので、それらの観念を破るのは非常に難しいのです。これが真理だと教えると、そうだと分かっても、なぜかと聞くのです。その

理由を教えると、分かったと言いながら、またその理由の理由について質問してきます。このように最後までその観念を破らなければなりません。そうして全て分かるようになり、何の問題もなくなります。ですから、文化の内涵の深い民族は多くのことを経験したため、非常に聡明だと私は時に感じています。しかし、真理を認識させる時、これらのものも副作用をもたらします。西洋社会の白人は思想が単純で、それほど深い内涵はなく、それほど多くの妨害もないため、真理を認識した後、すぐ分かるようになります。

弟子：孔子の「論語」がいつも頭の中に現れ、できるだけそれに抵抗していますが、私は正しいでしょうか？

師：修煉者として、もちろん正しいのです。孔子はただ人間としての道理を説いただけです。実は中国人は儒教の思想観念が非常に強いのです。全てが一新されているかもしれませんが、何といてもそれは人間のものです、それを排除すれば修煉にやはりメリットがあります。なぜなら、あなたが得ようとしているのは最も純粹で清らかな、更に高い次元の法理だからです。それはいくら良くても、やはり人間のものです、もしあなたの修煉まで妨害し、絶えずあなたの頭に反映され、修煉に影響していれば、それに抵抗し排斥します。皆さんに教えますが、どちらかの流派の思想を排斥しているのではなく、私は修煉者にどのように修煉するかを教えています。在席の皆さんの多くは修煉していますが、私は修煉している弟子に法を説いているのであり、常人に説いているではありません。このことをはっきり見極めてください！

弟子：夫は他の功法の気功師であり、私が病業を償う時、彼はいつも自分の方法で治してくれます。

師：皆さんもご存知ですが、私は心を重んじています。自分は確固として大法を修煉し、相手のものを受け入れず、夫婦であってもいいのですが、修煉に関しては厳粛でなければならないと分かるべきです。表面では彼はどうしても治してあげようとし、男性だから力が強く、どうしてもそうしなければならなくなり、あなたは彼から逃げることはできませんが、もしあなたの心が本当に固まっていれば、変化が起きると思います。また、彼が本当にあなたに何かを施したとしても、何の作用もありません。師父は全てを見ており、簡単にそれを払ってしましますが、彼にはそれが見えません。

弟子：煉功の時、考えに雑念がありますが、知らないうちに邪法を練ってしまうことがあるのでしょうか？

師：考えに雑念がある、これは修煉の過程で誰にも存在する現象ですが、影響はありません。しかし、私が言った、あなたを悪くしたり、邪道に入らせてしまったりするのは、煉功の時に意識的に考えに他の修煉のものを入れたり、或いは他の意識に制御されたりする場合だけです。これ以外、他の修煉と関係ないことが何かを形成してしまうことはありませんが、全ての雑念を排斥すべきです。

弟子：坐禅する時、足が痛くなくなった後、やっとな卵の殻の中にいるような感覚が現れてくるのでしょうか？

師：そうとは限りません。もし三十分しかできない場合、この三十分内に痛くなくなれば、その間に現れてくる可能性もあります。ある日そこまで静かになり、その状態までリラックスできたら、この状態に入るかもしれません。しかし、長く続くとは限らず、数秒、或いは数分後に出定するかもしれません。このような場合もあります。

弟子：多くの場合、知らず知らずのうちに、真・善・忍に背離してしまい、深く隠れている執着が外在の執着に覆い隠されています。

師：これは大丈夫です。安心してください。確固として修煉さえしていれば、これらのものを取り除くべきだと分かり、これらの良くない思想を認識して排斥すれば、あなたは即ち修煉しているのです。心配なのは、執着にしがみついて放そうとしないことです。それ以外の場合は大丈夫です。なぜなら、あなたは修煉しており、あなたは確かに修煉しているからです。

弟子：弟子の全ての良くない心は、曝け出されるのでしょうか？

師：これは間違いのないことです。私は必ず全ての良くない心を曝け出してあげますが、その時あなたが乗り越えられるかどうかが問題です。その良くない心が曝け出され、これが良くない心だと気づき、良くないとはっきり分かったら、それを隠さず、必ず取り除いてください。トラブルがやってきた時は、つまり私があるあなたにその心が現れたと教えている時です。しかし、皆さんは自分をみないで、往々にして他人があなたに良くないとか、他人が間違っているとか、自分の意見

や考えに合っていないと言っていますが、その時自分をみれば、その良くない心を見つけることができます。

弟子：未来、人類の道徳基準が回復した後、生命の階層は新たに現れるのでしょうか？

師：異なる次元の天体にいる生命は異なる能力があり、人類の階層はその人の善悪、徳と業力の量によって決められています。地球上では、人類の生命は全ての動物、植物より高いのです。私もあることに気づきましたが、多くの中国人、特に大陸以外の中国人は、家庭や家族に対する観念が非常に強く、法より強いのです。これは確かに法を得る上で深刻な障碍だと思います。しかし、実際の修煉の中で、多く的人是に確かに乗り越えましたが、これが大きな障碍だと感じました。人は人間としての基準をなくしてしまえば、人間と呼ぶに値しないのです。どうして猿を人間と呼ばないのでしょうか？ 人には人間の基準、人間の行動に関する観念と道徳の規準があるからこそ、人間になったのです。しかしこれで極端に走ったら、それではいけません。

弟子：人類の歴史はこの七十億人余りの人が人間の中で輪廻転生しているだけなのでしょうか？

師：多分そうでしょう。このことに関して皆さんは興味があるのでしょうか…実は今日の社会は歴史上かつてなかったのです。皆さんは新聞を読んだと思いますが、私が宇宙人の話に言及したことが、おかしいと思っている人がいます。皆さん考えてみてください。歴史上かつてこのような人類はなかったのですが、歴史上には人類の科学が現在より進んでいる時期があり、現在の科学を遥かに超えていました。現在の人間は月を作って天に置くことはできませんが、歴史上の人類はそれができたのです。しかし、今日人類が発展させているこの科学、この状態は人類の発展の全過程での唯一の道ではなく、他にも異なる発展の道があります。今日の人類の科学は、実は宇宙人がもたらしたものです。宇宙人を研究し、宇宙人の信号を収集している人がいます。実は宇宙人は既にあなたの傍にいます。ただあなたに接触していないだけで、それらはやりたいことを非常に系統的にやっています。

皆さん考えてみてください。この間科学は宗教だと私は言いましたが、皆さんにもすぐそれが分かりました。宗教の中に教主、牧師がいるのに対し、科学の中

でも校長、博士、修士、学士、教授、助教授などあれこれの肩書きがあります。しかも、科学は非常に整っており、系統的で、あらゆるところに存在している宗教の形式でもあります。人間は全ての宗教に対する信仰を超えるほど科学を信じているにもかかわらず、気づきもしていないのです。もし勉強できなければ、この社会に淘汰され、良い仕事につくことができず、生計を立てる良い手段もありません。一般的に言う宗教はまず精神からあなたを信じさせ、それから実際の真実の神の存在を見せ、聞かせ、感じさせるのです。一方、科学という宗教は、物質的にあなたを認識させ、物質上において発展させることにより、科学への精神的な依存に至らせるのです。つまり逆になっています。

しかし、私は科学に反対しておらず、なぜなら、科学も宇宙の産物だからです。私はただ科学とは何かを皆さんに教えただけです。しかし、科学は科学的でなく、人類に多くの永遠に解決できない災難をもたらしました。ご存知のように、工業による空気の汚染ですが、永遠に最も清らかな状態に戻すことはできません。工業による水の汚染の場合、人間はいくら良い方法を探っても、永遠に水を最も純粋で清らかな状態に戻すことはできません。人々はこのような空気を吸い、このような水を飲んでいますが、人類がこのまま進んでいけば(大法弟子は含まない)、変形してしまい、四肢の仕組みまで変わり、しかもますます酷くなりますが、これは物質的に科学がもたらした災難です。精神の場合、科学がまだそこまで進んでいない時、もしあなたは科学がまだ認識できていないもの、或いは神の存在、または良い人には良い報い、悪い人には悪い報いがあると口にすれば、科学はあなたが迷信的であり、科学的でないと言い、科学という棍棒を振り回してあなたを攻撃します。しかし、それによって打ち壊したのは何でしょうか？ 人間の神に対する信仰、人間の道徳を守る観念を打ち壊したのです。これを打ち壊してしまったので、道徳を守る人類の規準は徹底的に破壊されました。ですから、今日の人間はどんな悪事でも敢えてやりますが、これはこの低級な科学がもたらしたことではありませんか？

私はただ皆さんに真実の状況を教えているだけです。私は科学に反対すると言っていないませんが、ただ人間があまりに科学を迷信しているために人類にもたらした危険を言っているだけです。この科学は他でもなく宇宙人によってもたらされたのです。宇宙人の目的は何でしょうか？ 宇宙人は系統的に人類に数学、物理、化学に関する学問を与え、それから、あなたの身体と思想にそれが望む思想を形成させたのです。今日、人類は科学がもたらした生産や労働の道具、労働方式、日用品及び生活様式、科学が作った人間の思想様式と一切の行為によって、完全

に現代の変異した思想を形成してしまいました。今の人間は誰でもそうですが、みな宇宙人が人間に与えた思想を持っており、免れる人は誰一人いません。なぜなら、あなたが接している全てはみな、現代科学によってもたらされたものだからです。科学は隙さえあれば乗じてくるので、あなたの生活の全てはこの科学から離れることができません。

それでは、現代科学が作り出した一切の外観世界によって構成された物質環境を認識するにあたっての思惟方式と観念による思想が、あなたの頭に形成されます。それも一層の粒子の構成になります。あなたの行為は思想に支配されているため、あなたが操作している全て、運転する車、行なっている全ても科学によって与えられたのです。それによって、人体と思想にみな一層の粒子を形成し、宇宙人が人類にもたらしたこの科学は、宇宙人の科学の一層の粒子を構成したのです。これはまさに宇宙人が人体を得るために行なった系統的な安排です。

また皆さんもご存知のように、科学は人間の欲望を利用し、人間は自分の欲望の中で発展しています。現在の科学に対して疑問を提起する場合、いつも一部の科学者の反対を招いていますが、疑問を提起することさえ容認しないという考えまで、科学そのものの役割だということを人々は知らないのです。見れば分かりますが、疑問を容認しないいわゆる科学者は感情に動かされており、理性的ではないのです。実は皆さんに教えますが、今日まできたら、科学者が発明し、創造できるものは人間によって造られるのではありません。誰が造ったのでしょうか？ 宇宙人が操っている人間の脳の中に形成させたこの構造から造られているのですが、この構造はまさに宇宙人にしっかり掌握されています。それがあなたにひらめきを与え、何かを発明させますが、系統的に人類を占有し始めたのです。

皆さんもご存知のように、人の欲望は絶えず人間を発展させています。最初はロボットを作りたがっていたのですが、今はロボットでなく人間を作り、つまりクローン人間を作ろうとしています。もし本当にクローン人間が成功したら、皆さん考えてみてください。人は神によって安排されており、ある人が生まれた時、もし元神がなければ、ただの死体になります。どうしてどこも悪くないのに、人は死んでしまうのでしょうか？ どうして突然死んでしまう人がいるのでしょうか？ その元神が去って行ったのです。元神がなければその人はただの肉の塊になってしまいます。人は元神があるので生きています。人体はあたかも衣服のように、人々がそれを着たら、それは動くことができ、着なければ動くことができません。皆さん考えてみてください。神がもしクローン人間に元神を注ぎ込まな

ければ、人が人を造っているのです、神は決してそれを認めません。どうすればいいでしょうか？ 宇宙人はちょうどこの隙に乗じて、その人の元神になり、人の身体を占有してしまいます。このような人はますます多くなり、人の欲望が指図されたまま、人は絶えずこのような人を製造し、ますます多く製造することによって、それが大多数になってしまいます。それも人間の一分子になり、人より賢いのです。人間の考えにもそれらの一層の粒子が存在し、それらにコントロールされてしまいます。そして、それらは法律を制定し、今後生殖を認めず、全てクローンしなければならないようにすれば、それらは大量に地球に侵入して来ます。表面上は人間のように見えますが、既に宇宙の生き物になり人間ではなくなります。皆さん考えてください。私は決して神話を語っているのではありません！（拍手）

もちろん、現在のこの情況に直面して人類は全く為す術がなく、科学がもたらした全てを振り捨てることができません。なぜなら、人間の科学がそれらに掌握され、人は全くそれらの存在を見つけることができないからです。人はまた宇宙人と連絡を取りたいと思っていますが、今日の人類の全てはほぼ宇宙人が発明したもので、宇宙人が連絡してこない人間は思っていますが、実は人は時々刻々宇宙の生き物と連絡しているのに、まだ宇宙人を探す必要があるのでしょうか？ ですから、この全てを前にして、人類は為す術がなく、解決することができません。これは私が見た現在の人類の最も深刻な問題の一つであり、私はそれを明らかにし、人類に教えました。

科学に反対しないと私は言いましたが、私は人類の真実の情況も見ました。なぜなら、私もこの環境で皆さんを済度しているのです、ここで暮らさなければならず、車や飛行機に乗ってここに来なければなりません。科学と宇宙人も宇宙の中の産物です。しかし、人類の発展には最初から滅びてしまう日があり、これは規律なのです。私はただ学習者の修煉のため、学習者に宇宙を知ってもらうために今日のこの現象を教えました。具体的な話をすると、多くの常人がそれを信じないため、話さないことにしました。実は人類にとって、コンピューターの発展は極めて恐ろしいことで、自分で自分を壊滅するのに、なぜ壊滅されるのか、その訳も分からないのです。現在、人間はコンピューターに資料を保存し、結果の分析にもそれを用いていますが、このまま発展していくと、コンピューターを使って決定を下し、人はそれに従い、それからコンピューターは完全に人間を指揮するようになります。コンピューターの知能化が進めば進むほど、人間はそれに依存し、最終的に完全に制御されてしまいます。つまり人間自身の欲望が利用され、

自分を壊滅してしまうことになります。

弟子：師父がお書きになった経文は、往々にしてある背景に対して書かれたもので、海外の修煉者の法に対する理解に影響するのでしょうか？

師：そういうことはありません。みな同じです。私が書いた『精進要旨』は主に皆さんが修煉している過程で現れた問題を修正するためのものです。修煉について言えば、『轉法輪』に従って修煉すればいいのです。何の影響もありません。

弟子：集団で法を学ぶ時、あるところまで読むと、何かを悟らせられたような気がして、それが分かった時、皆さんは既に前に進んでいるのです。

師：これは大丈夫です。法を学ぶ目的は皆さんを分からせることであり、分かることが第一義なのです。法を読んでいる時、自分が読んでいるこの行の意味が分からなければならず、少なくとも、表面の意味が分からなければなりません。読んですぐ忘れるということですが、気にしないでください。それは大丈夫です。ひたすら読んでください。自分が何を読んでいるかも分からず、ただ読んで、読んで、口は朗読しており、目は追っていますが、心ここにあらずではいけません。それでは、修煉の目的に達することはできません。

弟子：佛家はどうしてもとりわけ縁を重んじているのでしょうか？

師：実はみな縁を重視しています。多くの宇宙の真相は皆さんに教えることができません。なぜなら、彼らは神なので、皆さんに人間の考えで彼らのことを考えてほしくないからです。人間は宗教の中で修煉すれば天国に行くことができると思い、神を敬い、神の言う通りにすれば見守ってくれると思っています。実は今までの歴史において、人々は修煉によって天国に行こうとしていましたが、非常に難しかったことを皆さんは知らないのです。落ちて来た以上、もう絶対あなたを上を上がらせず、つまりあなたを戻させないのです。なぜなら、あなたがいくら修煉しても、彼らを汚染してしまい、彼らほどきれいでないと神は思っているからです。しかし、今日は違います。ご存知のように、私たちは本源から更によく行なうだけでなく、彼らの昔の一切を超え、宇宙の歴史上における最も良い時期を超える状態に達するのです。(拍手)

弟子：多くの弟子はまだ出世間法を出たように感じていませんが、彼らは圓滿成

就に間に合うでしょうか？

師：法まで得たので、心を放下し修煉さえすればいいのです。間に合わなければ、私は皆さんを済度しないのです。実は私が最も心配しているのは、時間のことでなく、あなたが大法の中で、最後まで修煉し続けられるかどうかです。既にかなり高い次元まで修煉しても、何の感覚もない人もいます。感覚をもって修煉の高さを量ってはいけません。感覚は何もののでしょうか？ わざと感じさせない人もいますが、彼は高い次元から来たからです。少しでも感じてしまえば、一部の謎と悟りを破ったことになり、それで元のところに戻れなくなるかもしれません。なぜなら、彼に対する要求は厳しいからです。他の人は見えても、戻ることができませんが、彼は見えるどころか、感覚もあってはならず、僅かでも足りなければ、先天の位置に戻ることはできません。このような道理ではありませんか？

弟子：師父の『洪吟』を読む時、師父の壮拳に感激して涙が出てきます。一種の言い表せない深い慈悲を強く感じました。(拍手) 師父に恩返しできないことを弟子として永遠に残念に思っています。

師：実は残念に思う必要はありません。皆さんが法を得るのも容易いことではなかったのです。偶然に誰かから教えられ、法を得たことを皆さんは知っていますが、それはあなたの心の底に埋もれているもので、電気のプラグのように、繋がればすぐ電気が通ります。しかし、プラグが埃や泥に汚され、差し込んでも電気が通らない人もいます。多くの人は法を得るために、歴史上命を捧げたことがあり、ずっと修煉してきました。しかも修煉の過程で多くの苦を嘗めました。

弟子：もし子供が修煉せず、親が圓滿成就したら、子供はどうなるのでしょうか？

師：あなたの現在の状況からそれが執着だとは言えません。なぜなら、あなたは今その境地にいるからです。しかし、このことに対して、皆さんは高い境地に立脚して考えれば、それが執着だと分かります。自分が圓滿成就できるかどうかも分かっていないのに、どうしてこれほど多くの後顧の憂いがあるのでしょうか？

考えたことがあるのでしょうか？ 修煉して圓滿成就したら、生々世々に借りた債務、恩讐などに構わず行ってしまっているのでしょうか？ あなたがここで返したのは、ただ精神面で借りたもので、実質的に借りたものはまだ返していません。それでは、どのようにして圓滿成就するのでしょうか？ 私はそれらを全て

解決し、あなたのために多くのことをしなければなりません！ 考えてみてください。あなたの恩、あなたの恨みなどは全て清算しなければなりません。どのように清算するのでしょうか？ その前提としては、もしあなたが本当に修煉して圓滿成就しても、あなたの世界に何も無いのではいけません。佛は衆生を済度すると言っているではありませんか？ あなたの世界にも衆生がいて、それはあなたが以前殺した生命、あなたが借りた債務の債権者、またはあなたと仲が良い人かもしれません。恩と讐の二種類の縁も清算してあげなければならないので、多くの生命があなたの世界の衆生になるかもしれません。

歴史上の恩讐を全て片付けてあげるのも、あなたの現在の縁も清算してあげるのではありませんか？ 多くの女性はわが子に対して……本当にあなたの修煉に影響しています。心を放下し、ひたすら修煉してください。実はある人に対して、いくら捨てがたくても、死ぬ時になれば、捨てられなくても捨てなければなりません。寿命がそれほど長くない人もいますが、死ぬ日がくれば、手放したくなくても手放すしかないので。もし修煉して圓滿成就すれば、あなたが誰を済度したいのか師父は知っています。しかし、これに執着してはならず、別の形の執着にしていけません。

弟子：修煉が良くできているある人は「有為も無為の中にある」と言いましたが、意味が理解できません。

師：これは妨害されたのではありませんか。大法の中で私が話したことでなければ、考えないでください。大法を修煉している弟子が話したことで、その人が異なる状態、異なる境地で悟ったのかもしれませんが、正しいかもしれませんが、間違っているかもしれないので、構わないでください。私が話したように行なえばいいのです。心を法に置き、他人が話したことに執着しないでください。

皆さんがはっきり分かっている必要はないのは、法を伝え、人を済度することが有為か無為かの問題ではありません。これは一般の生命が理解できることではありません。しかも行なわれたことは人間のところに現れてきません。佛の世界も豊富で多彩であり、しかも更に美しいところだと私は話したことがあります。そうでなければ、誰が佛の世界に行くのでしょうか？ 人間が考えているようなことではありません。佛、道、神から見れば、人間が行なっていることの多くは、その人が佛の世界に行くことをひどく妨害しているので、全て有為の執着です。しかし人を済度することはまた別のことです。しかも、皆さんに教えますが、

私はただ人を濟度しているだけでなく、人を濟度するのは私がしようとしていることの一部にすぎず、他の原因もあります。例を挙げて説明すると、この宇宙はもうすぐ解体してしまうことになり、ある神はそれを解決できますが、何もしなかったとします。それでは、この神が手を出したら、それは有為なのであり、何もしなければ無為なのでしょうか？ これは人間の言葉で高い境地のことを話していますが、高い境地ではそれが別のことになり、人間の有為という概念で佛の境地と更に高い境地を包括することはできません。

弟子：泰山は私と深い縁があり、これに対して多くの謎を抱えています。師父は弟子のために少しばかりの困惑を解くことができるでしょうか？

師：できません。私は修煉者に修煉の中のことを説き、あなたの圓滿成就に責任を負うことしかできません。生々世々のことに執着すれば圓滿成就できません。あなたに説いてしまえば、あなたの執着を強めることになります。

弟子：心の中で輔導員、輔導站の責任者になりたいと思う時がありますが、これは強烈な執着と有為なのでしょうか？

師：実は多くの輔導員は選ばれたのではありません。ただ彼は法を得て、この地区に煉功する人がいないので、何人かが煉功しに来るようにしましたが、自然に彼は輔導站の責任者、輔導員になりました。輔導站の責任者も私たち大法の中の特有な言葉ではなく、常人の中の言葉です。昔、気功科学研究会に所属していたものは「站」と呼ばれ、みな輔導站と呼ばれていました。

皆さんのために何かをしたいというのは良いことです。しかし、責任者になりたいからそうするのであれば、それは良くありません。なぜなら、ここに役職はなく、その人に給料を払うこともなく、何もありません。あなたが皆さんのために何かをしたいと私に分かっているので、条件を整えばいいと思います。何かの官職につかなくても、皆さんのために良いことをすることができ、熱意をもって行なえばいいのです。現在多くの地区で多くの人が大法を学んでいますが、これは学習者が法を広めるために多くのことをした結果です。

弟子：私たちはここで先生の説法を聞いていますが、私たちの各空間にある身体も聞くことができますか？

師：私は最も本源からあなたの身体を変えているのではありませんか？ どうしてまだ心配しているのでしょうか？（拍手） ここにいるあなたは聞いているだけで、変化は小さいのですが、向こうの空間のあなたは本当に変化しています。

弟子：毎回、法会に参加する前に妨害と魔難に遭いますが、自分の業力によるものか、それとも間違っって何かをしたからでしょうか？

師：問題にぶつかったら、自分を探すべきです。魔難も偶然ではないので、必ずあなたの何かの心を除去するためのもので、それによってあなたを向上させているのです。

弟子：法を学んでから、常人のことはしてもいいし、しなくてもいいと思っていますが、どのようにして、自分に何かをしようとする執着心があると判断するのでしょうか？

師：更に詳しくお話しますが、皆さんは常人の中で修煉しており、できるだけ常人の状態に符合しながら修煉すべきです。この話の意味は非常に広範囲のことを含んでいます。あなたの衣食住、生活、仕事、勉強など全てが含まれており、最大限常人に符合しながら修煉すべきです。昔の修煉者のように、修煉し始めたら、浮世に嫌気がさして出家してしまっってはいけません。常人の中で修煉するように私は教えました。しかも皆さんに教えますが、あなたが行なう全てのことは昔よりも良くならなければなりません。この法が伝え出された時、仕事のある人、忙しい人がどのように修煉するか十分に考慮に入れました。ですから仕事の後に修煉し、法を学べば、決して取り残されることはなく、遅れることもありません。私はあなたの執着心を取り除いていますが、あなたの物質的な何かを取り除こうとしているのではありません。もしそうであれば、街で物乞いをしている人はみな高人になります。このようなことではありません。取り除いているのは、人間の心であり、執着して放さない心です。

既に話したことがあります。あなたの家が黄金のレンガで造られたにしても、あなたが心の中でそれを気にもせず、お金を何よりも大事に思うこともなく、それほど強い欲望もなく、あればあるで、運命にあるものだと思って気にせず、こうすることができれば、つまりその心を取り除くことができれば、何を持っていても構いません。あなたは常人のような執着の心がありませんが、周りの人に望まれ、どうしても役職についてほしいのであれば、その役職についても構いませ

ん。あなたの商売が非常に繁盛し、とにかく儲かるのであれば、儲かっても構いません。どの階層にいても、修煉することができます。くれぐれも極端に走らないでください。昔、真法を得て修煉し始めたら、何もしなくなった人がいますが、これではいけません。なぜなら、私が皆さんに教えたのはこのような修煉方法だからです。大法の中で修煉してまだ圓滿成就していなければ、必ず常人の心があるので常人の仕事をすることができ、ある程度の人間の情もあります。

弟子：執着心ではないかと認識していますが、なかなか取り除くことができません。肉食の問題のように功から反映されることがあるのでしょうか？

師：執着心だと認識してもまだ取り除かないのですか？ もちろん一遍に取り除くことができず、誰でもそうですが、徐々に自分を抑え、更によく行なうように自分に要求すれば、次第にできるようになるのではありませんか？ もちろん、先生が徐々にと言ったから、ゆっくりしようと思えば、それは向上心がなく、精進しておらず、自分の修煉のために責任を負っていないことになります。つまり修煉の中で、いかに自分を煉功者と見なすかということです。本当にそれができれば、全てをすぐ理解できると思います。

弟子：今回の法会で、身体の苦を求めて業を減すると行った学習者がいました。

師：それは間違っています。正しくありません。自分で修煉や業を減する方法を按排してはならず、自分で苦を求めてはいけません。それでは、私が按排してあげた修煉の過程を乱してしまうことになります。ですから、本を読み、法を読み、修煉し、トラブルにぶつかったら自分を探しさえすれば結構です。仕事をよりよくこなし、勉学もよりよくやり遂げればいいのです。(拍手)

弟子：修煉すればするほど常人の観念がますます強くなったと感じ、自分が修煉者であるかどうかも分からなくなりました。

師：皆さんに教えますが、修煉の中で、ますます明確に自分の執着心を意識できるようになれば、それは後退ではなく、進歩なのです。常人は意識することができませんが、皆さんは明確にそれを意識することができ、修煉が良くできていると言ってもいいのです。しかし、どうしてこれらの心をしばらくの間、取り除くことができないのでしょうか？ 私が与えた修煉方式がそれを決めたのであり、すぐに執着心を全て取り除くのではなく、段階的に一層一層と取り除いていくの

です。このようにして、皆さんにまだ何らかの常人の心があり、常人の中で暮らすことができ、徐々に修煉し、向上していくのです。執着心がなければ、向上することもできず、修煉も終了し、常人の中にいられなくなります。ですから大法は他でもなく、このように修煉するのです。

弟子：『轉法輪』を読む時、一講を通読した後、内容を覚えるために、中の一部の文を読み返していますが、このような読み方はいいでしょうか？

師：それでもいいのです。皆さんに教えますが、他でもなく一回一回繰り返し通読するのが最もいいのです。

弟子：右目の下に副通路はありませんが、これは法と関係があるのでしょうか？

師：これは法がこの次元の生命のために切り開いた存在形式であり、これもある次元での現れです。もし次元が高くなれば、また変化があります。とても高い次元では、その目は多くの層の空間を貫き、見通すことができ、ミクロからマクロまで見通し、更に複雑な生命と空間の存在形式を見通すことができます。高い次元にいる者は人間のように悪いことをすることはなく、そのような形式の目はもう役に立つことはありません。ですから、各次元の目も変化しています。先ほど話したではありませんか？ 人の身体は各次元において、その表現形式があり、外在的な表現形式まで変化しています。ある次元において、顔全体にトンボのような目が現れ、中に無数の目があり、このような状況も現れるかもしれません。修煉の時、異なる次元における表現形式は非常に複雑です。皆さんにこれらの話をしたくありませんが、つまり皆さんはこれらのことに執着しないでほしいということです。各次元の状況を皆さんに見せたら、皆さんはそれに一生執着し、上まで修煉できなくなります。「なんと素晴らしい！」と常に思い、執着してしまいます。ですから、それではいけません。低い次元で修煉している時、右目の下に通路がないのは、人間が銃で人を殺す時や、矢を射る時もこの目を使うからです。つまりよくこの目を使って悪いことをしているからです。もちろん他の原因もあるので、智慧の真眼が現れてこないのです。

弟子：坐禅をすると、頭が左右に振れたり、上下に動いたりします。

師：これは非常に自然な現象です。多くの人も知っているように、もし子午周天が通れば、大周天か小周天かに関わらず、子午周天という形式の周天が通れば、

頭が頷くことがあります。周天が逆の方向に回る時、頭が後ろに振れることがあります。脈が正の方向に回る時、頭が頷きますが、逆の方向に回る時、頭が後ろに振れます。脈の回りで頭が前後に振れることがあります。もし卯西周天が通れば、頭は左右に振れることとなります。周天がこちらに回れば頭がこちらに振れ、あちらに回れば頭があちらに振れます。しかし、その動きに従って動いてはいけません。それは一種の執着であり、歓喜心です。ですから、できるだけ動かないようにしてください。頭がずっと頷いている佛や道はいないでしょう。そうでしょう。佛や道にこのような現象はありません。煉功の初期にこのような状態が現れますが、できるだけその動きに従って動かないでください。

弟子：新聞に師父の略伝を掲載してもらおうように推薦しようと思いますが、これはいいのでしょうか？

師：よくありません。私は自分のことを話したくありませんが、皆さんも話さないでください。皆さんが私のことを知りたがるので、『轉法輪』に非常に簡単な略伝を載せていましたが、今は取り下げました。皆さんに教えたのは他でもなく法なので、この法を学んでください。私の状況に対して興味を持たないでください。この法さえ学べば、あなたを圓滿成就させることができます。(拍手)

弟子：会社に勤めている学習者が、もし上司から仕事のために嘘をつくように言われたら、どうすればいいのでしょうか？

師：この具体的な問題について私は既に説いたことがあります。どのように行なうか、それはつまり修煉なのです。これは非常に簡単なことです。どうしても避けられない場合は、それはあなたがしたとは言えません。しかし本当の修煉者として、このようなことはだんだん少なくなります。しかもあなたが具体的に行なう時、程合いを考えなければなりません。具体的なことは自分で判断してください。私は具体的にどのように行なうかを教えてはいけません。それでは、あなたが修めるものがなくなります。

弟子：国内の海賊版の本は、法輪の図形を先生の写真の前のページに置きましたが、このような本は問題があるのでしょうか？

師：今、海賊版の本が氾濫しています。私の大法の本は超常的な法理を述べましたが、しかし、できるだけ学術的な観点から述べています。社会にはでたらめで

エロチックなものが氾濫しており、人に悪いことを教える本や、でたらめなものが何でもあります。このような本まで出版できるのに、良い人になるように教える本は出版できないのです。どこか間違っているのではありませんか？ 皆さん考えてみてください。一億人が大法を学んでおり、国にとってもかなりの税収になるはずですが、このような本を出版させないので、海賊版が多く現れてきました。海賊版は税金を払わないので、国にも税金が入りません。これはまたどこかがずれています。

海賊版の本に対して、私はこのように見えています。出版者に会って議論することができないので、どうすればいいのでしょうか？ 新たに製版して印刷したものは買わないでください。なぜなら、必ず誤字があるからです。皆さんがご存じのように、この本を出版する時の校正は非常に難しいのです。それは法だから、魔の妨害もあれば、人間の思想にある業力も邪魔しているので、非常に難しいのです。彼らは学習者ではないので、このようなことをする時、うまくできないかもしれません。以前中国の正規の出版社によって出版された時、校正は全て学習者によって行なわれました。ですから、海賊版には必ず誤りがあり、脱字や誤字、甚だしい場合、ページの乱丁落丁などがあるので、このような本を買わないでください。写真製版したもの、つまり私たちの本をそのまま撮影したものなら、買ってもいいのです。なぜなら、大法の内容を改ざんしていないからです。

弟子：ずっと縮小してきた宇宙の膨張速度がまた急に増え、しかもますます速くなっていると科学者は観察して分かりましたが、誰がこの動力を与えたのかとみなな推測しています。

師：人類が認識している宇宙、望遠鏡で見たこの宇宙も、分子からできた表面粒子によって構成された空間の中のもので、この空間を超えていません。この宇宙の運動に至っては、地球は太陽をめぐって運行し、電子は原子核をめぐって運行し、物質は運動していると皆さんは知っていますが、実は更に大きな運動形式が存在しています。数年前、地球が呼吸しているように、膨らんだり縮んだりしていると科学者は発見しました。地球は分子によって構成されたものであり、地球の中に生存している更にミクロ的で更に小さな生命集合体の角度から地球を見れば、宇宙のように見えるのではありませんか？ 地球内部を構成した全ての分子はみな、星ではありませんか？ それも一層の宇宙です。それでは、これらの分子の変動は何でしょうか？ それは、今日科学者たちが見た宇宙の中の現象と同じではありませんか？ 突然速くなったり遅くなったりすることに至っては、他

の原因があります。もちろん皆さんに教えたことがあります、法を正すことを行なう時、時間を超越して行なっており、同時に全ての空間を超越して行なっています。でなければ、一生を尽くしても終わらないのです。

弟子：時に以前に悪いことをした時の考えが現れてきて、大法を修煉する資格が全くないと思ってしまう。

師：本当に修煉をやめてしまわないでください。これらの妨害を意識することができるのは、かえって良いことです。つまり、これらのものが自分ではないと意識することができ、それを克服し、抑制していますが、この時こそそれらを消滅しているのです。もし何の念も動かさず、頭に良くない念が自然に現れてきたら、それは業力があなたを妨害しており、修煉させないようにし、大法を修煉する資格がないように感じさせています。なぜなら、あらゆる物体はみな、生き物だからです。特にその業力はあなたの思想に形成されたので、あなたの思想と直接繋がっており、あなたの頭に反映されたら、自分の考えだと思ってしまうのですが、実はそれはあなたの考えではありません。

弟子：私たちはオーストラリアの学習者ですが、カナダの法会に参加しに来ました。間違っているのでしょうか？

師：間違っていない。法を求めに来ているのに何が間違っているのでしょうか？ 皆さんが着実に修煉する時間が少なくなるのではないかと心配しているだけです。

弟子：今まで乗り越えてきた関を振り返ってみたら、ただ表面でできただけで、本当に心からできていないと気づきました。

師：このことに気づき、根本から自分を変え、今まで乗り越えた関を振り返ってまだ足りないと感じ、皆さんに教えますが、これこそ修煉なのです！ 具体的に言えば、修煉がまだ足りないと感じ、いかに更に精進するかを考えることは、非常に素晴らしいことです。

弟子：各地の輔導站はお互いに法輪功のバッチを贈りあったり、同じ黄色い煉功服を着たりしていますが、これを見て文化大革命の時のことを思い出しました。

師：多分、文化大革命はあなたに非常に深い印象を与えました。しかし文化大革

命の時は、造反することこそ理があると言っていました、私たちは決してこのようなことを行ないません。私たちは人に優しく接し、みな良い人になろうとしています。

服装のことに至っては、実は彼らと話したことがあります、集団活動をする時、どうしても統一した服装をしようと思えば、着てもいいのです。しかしこれらの服がどこで作られたのか、私も分かりません。各地はみな自分で作ったようです。みな喜んで運動服のような統一した服を作りました。しかし、普段煉功する時、着ないでください。第一に、宗教のように思われるからです。第二に、この服を着て煉功していれば、着ていない人は学びたくても、近づくことができません。ですから、普段は着ないでください。集団活動に必要な時に着てください。

弟子：自分の敵を愛さなければ圓滿成就できないと師父はおっしゃいましたが、一年経ったにもかかわらず、師父が要求されたように、他人の利己的な部分と偽善を許すことができません。

師：このようなことではありません。皆さん考えてみてください。人間が利己的で偽善であれば、自分で自分を壊滅しているのですが、これは気の毒ではありませんか？ そのような人は、その行為がますます悪くなれば、その人が直面するのは消滅されることなのです。皆さんは、かえってますます良くなり、上に行くことができますが、そのような人を見て気の毒に思いませんか？ しかし利己的であることや偽善そのものを許してはいけません。それは真にその人自身ではないので、そのような人を許すべきです。また、人間が定めた敵は人間の敵であり、皆さん考えてみてください。それは修煉者の敵ではありません。皆さんは常人を超越しようとしている人たちであり、神が人間を敵と見なすことがあり得るでしょうか？ 常人の次元を超えた人は常人を敵と見なしてはいけません。ですから、あなたの敵を愛さなければ圓滿成就できないと教えました。(拍手) 大法を破壊する魔はこの限りではありません。

弟子：中国の二十五の省、市、区の四十八地区の大法弟子は現地の大法弟子を代表して師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：十六ヵ国の大法弟子は自国の大法弟子を代表して、師父にご挨拶を申し上

げます。

師：ありがとうございます。(拍手)

弟子：説法が終わったら、大手印を打っていただけないでしょうか？

師：大手印を打つのですか？ 打ってはいけないということではなく、皆さんに打ってもいいのですが、他の地区の法会では、これからこのような要求を出さないでください。多くの学習者は大手印の本当の内涵を理解することができません。師父がここでパフォーマンスをしていると思わないでください。それなら、私は非常に悲しく思います。もし人間が大手印の偉大な意義を理解することができなければ、私は行ないません。ですから、これらのことに注意してください。

では、一式の大手印を打ちます。

法会はそろそろ終わりに近づいてきました。私が説法するのはいつも最後です。

古くからの学習者がますます成熟してきたと私に分かっています。これを見て、本当に非常に嬉しく思っています。皆さんが法に則って法を認識し、自分を本当の修煉者と見なすことができ、このことは大法が世間や常人の中に存在するという形式を強く固く安定させることに貢献しました。いかなる形式も大法を破壊することができず、どんなことも大法を動かすことはできません。(拍手)

人間が心の中で何かをしようと思えば、外在的なあらゆる形式もそれを変える術はありません。もちろん私は人々に良い人になるように教えており、みな修煉の中にいます。私は学習者の確固として磐石のような堅固な力によって生み出された作用を感じました。同時に、在席の皆さんの中に大法をまだ理解できていない人もおり、他の理由で会場に入った人もいます。しかし、あなたが記者であれ、スパイであれ、または他の仕事に従事している人であれ、このようなことはあなたの一生で、今までなかったことだと思います。私が説いたことは常人が話せることではありません。常人の中の最高レベルの教授、最も優秀な科学者であっても、このようなことを語ることはできません。なぜなら、この全ては人類の知識からきたのではないからです。古今東西の全ての本を調べても、見つけることができないのです。修煉に言及した本でも、曖昧ではつきりしておらず、真機を教えず、修煉を指導することができません。修煉の全てを本当に話したのは、今回

の人類文明の時期に数人しかいませんでした。しかし、私は彼らと比べようとしているわけではなく、私もそうたくありません。私が皆さんに教えたのは、確かに皆さんが永遠に二度と聞くことのできないものです！（長時間の拍手）

人間の生命は長くありませんが、道は自分で歩むものです。どのように自分の生命の道を歩むかについては、自分自身で決めるものであり、誰も他の人を強制しません。在席の人々がこれは良いものだと思っており、彼ら自身が良いと感じているからここで修煉しているのです。ですから、全ての人は本当に自分が何のために生きているのか、誰のために生きているのかについて考えるべきです。機縁とすれ違ったら、それは永遠に後悔しても取り戻せません。今日どんな形でここに入ったにしても、それはあなたが法を得るように導いてくれた形であるかもしれませぬ。（拍手）

私、李洪志はこのことを行なっていますが、私は人のために責任を負い、社会のために責任を負うことについてよく考えて行なったのです。もし社会に、人々に申し訳ないことであれば、私は決してこのことを行なわず、今日のようにこれほど多くの方が学びに来ることもありません。事実も実証しているように、私は社会に厄介なことをもたらすことがなく、かえって多くの正しくないものが、私と大法の前にその姿を曝け出しました。そのため、これらの正しくないものは、私と大法に反対するようになりました。これは私の責任ではありません。私は人々に良い人になるように教えていますが、これは決して間違っていない。人々に更に良い人になるように教えていますが、これも間違っていない。まさに私と学習者たちが、あまりに正しく行なったので、全ての正しくないものとあまり正しくないものは、心のバランスを失いました。

確かに、人々に良い人になってもらうことは、非常に難しいと私は言いました。表面からある人を変えるのではなく、人の心が本当に動いてやっとな変わるのです。このような変化はどんな力をもってしても再び変えることのできないことです。（拍手） 私は人々にまだ佛性があるのが見え、人類社会がいくら腐敗堕落しても、人間にはまだ善の念があるのを見て、このことをしました。

事実も私が成し遂げたと実証してくれました。今日の大法弟子が大法の中で精進し、しかも絶えず自分の次元を向上させているのを見て、私にとってこれは最大の喜びです。社会がどのように私を見ているかに至っては、私と大法が正しく歩み、学習者が正しく行ないさえすれば、どれほどの偏見があっても、必ず変わ

と思います。(拍手) 私たちを理解しない人、攻撃する人はみな、同じことを言っています。「あなた達はそれほど素晴らしくできているのか？ あり得ないことだ」。つまり人類にまだ良い人が存在していると彼らは信じないのです。それでは、私たちは実際の行動で見せてあげましょう！！(拍手)

実情が分からず反対する人は、私が思うには、私たちに対する理解がまだ足りないからだと思います。彼らに理解させ、認識させればよく、どんな方法でもいいのです。正式なルートで来ても、正式でないルートから来てもいいのです。私たちは門戸を広く開き、知りたいことを全て教え、見たいことを全て見せます。調べたいことがあれば、故意に破壊するためにやって来たものでない限り、思う存分に調べてください。もしここに本当に問題があれば、私たちのところは浄土でなくなります。皆さんにこのようにさせることができ、あなた達にこのようにさせることができるのは、私たちがここまでやり遂げたからです。私たちのところは本当の浄土です！！(拍手)

私たちは宗教ではなく、ましてや邪教ではありません。学習者たちはただ修煉しているだけです。圓滿成就できない人も常人社会で良い人になれます。これほど多くの方が社会でこのような働きをしているため、どこの国においても有益なのです。社会を安定させ、人心を善に向かわせることができます。将来どこの国も大法を歓迎すると思います。ですから、私と学習者にとって言えば意識的に常人社会のために何かを行なおうとしているではありません。私、李洪志は前から話していたのですが、常人社会のために何かを行なおうとしてはいませんが、私が行なったことは、必ず常人社会で有益でなければなりません。私は常人社会のために何かを行ないたいのではなく、ただこれらの修煉者のために責任を負いたいだけです。当然、更に多くの方が大法を学べば、彼らが社会で果たす作用は必ず有益なのです。彼らは非常に大きな場を形成し、大きな集団を形成し、社会全体に道德の回復をもたらすに違いありません。(拍手)

「なぜこれほど多くの方がこの法を学んでいるのだろうか？」と多くの記者や人々は不可解に思っていますが、今日在席した人々はみな、目にしたと思います。なぜでしょうか？ ここは人々に正しい道を、しかも本当の良い人になるように教えているからです。ここには社会のでたらめな汚いものがなく、全ての正しくないものを浄化し、他人にも社会にも有益な人、更に圓滿成就の基準に到達する人になろうとしています。私たちはお金を取らず、人々を率いて悪いことをせず、政治にも参与しないので、多くの人々を引きつけました。人類にまだ良い人がい

ると信じない人たちが、このことを過小評価したのです！！！（拍手）

私は私個人を宣伝したくないので、できるだけマスコミの取材に応じないようにしています。大法をまだ理解していない人が取材しようと思えば、多くの学習者はあなたに教えてあげるでしょう。もしどうしても私に会おうとしており、大法をまだ理解しておらず、「法輪功とは何ですか？」と聞くのであれば、私はあなたに会いません。まず私の本を読み、私たちを調べてから、会ったほうが良いと思います。（拍手）

皆さんもご存知のように、二言三言でこのことを説明しようとしても無理です。これは常人のことではないので、私たちを分かっていない記者は断片的な内容を元にして、自分の観念で尾ひれを付け、想像したことに頼って評論しているのです。このようなことは二度と起きてほしくありません。なぜなら、学習者たちは良い人になろうとしているのに、邪だと言われ、これはあまりに不公平であり、学習者をひどく傷つけるのです。（拍手） あなた達の報道はあまりに乖離しているのです。ここでは多く話したくありませんが、大法弟子ができるだけ速く精進し、着実に修煉することによって、一日も早く圓滿成就できるように望んでいます。

（長時間の拍手）

皆さん、ありがとうございました！